

I 事業計画

1 本校の概要

本校はⅠ・Ⅱ・Ⅲ部の定時制の課程、Ⅳ部の通信制の課程を持つ多部制単位制の高等学校である。平成13年に霞城セントラルビルに移転し、Ⅰ・Ⅱ部を開設、全面開校し現在の形となった。

在籍数は、5月1日現在で定時制249名、通信制722名(うち履修登録者447名)。その年によって変動はあるが、定時制・通信制それぞれの課程で約70名が卒業している。

2 これまでの本校キャリア教育の取組み

(1) キャリア教育の取組み(定時制)

本校定時制では平成23年「中教審答申」を受け、『キャリア教育の手引き』を作成し、「各教科・科目における取組み」「総合的な学習の時間における取組み」「特別活動における取組み」の各分野から総合的にキャリア教育を推進することを意図し、各年次の目標を下記のように定めている。

1年次における進路目標 — 自己理解「調べる」

- ・新しい環境に適応するとともに他者との望ましい人間関係を構築する
- ・学習活動を通して自己の能力適性を理解する
- ・様々な情報を収集し進路選択の幅を広げる

2年次(3年次)における進路目標 — 自己啓発「行動する」

- ・他者の価値観や個性を肯定的に認め、受容する
- ・学習活動を通して勤労観・職業観を育成する
- ・自己の職業的な能力適性を理解し、将来設計を図る
- ・進路実現に向けた課題を理解し、検討する

卒業年次における進路目標 — 自己実現「目標に向かって進む」

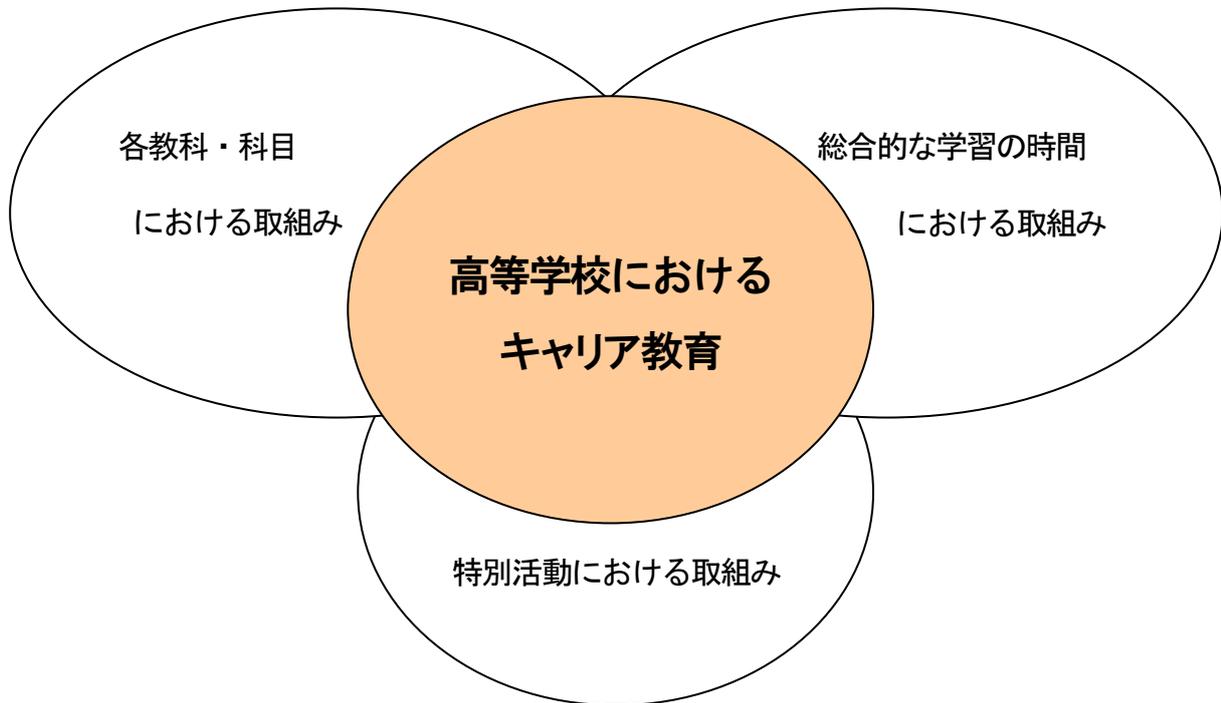
- ・自己の能力適性を的確に判断し、卒業後の進路について具体的な目標と課題を定め実行に移す
- ・理想と現実の葛藤を通して困難を克服する
- ・さまざまなスキルを身に付ける

(『キャリア教育の手引き』P6より)

本校では平成21・22年度に文部科学省の研究委託事業である「高等学校における発達障害のある生徒への支援事業」を行い、教職員の発達障害に関する理解を深め、さまざまな支援・対応の枠組みを構築した。それに加え様々な外部機関や県の事業との連携を図り、進路実現に向けて次頁のようにキャリア教育を推進してきており、昨年度からは本事業における外部人材の活用、更なるキャリア教育の実現、個々の生徒の進路実現の研究を推進している。

〈 キャリア教育の全体像 〉

〈イメージ図〉



「キャリア教育」とは、一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育である。(平 23 「中教審答申」)

※社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現して行く過程を「キャリア発達」という。

◎ 言い換えれば、「子ども・若者が、社会の一員としての役割を果たすとともに、それぞれの個性、持ち味を最大限に発揮しながら、自立して生きていくために必要な能力や態度を育てる教育」と表すこともできる。(平 23 「高校キャリア教育の手引き」)

■ 各教科・科目で進めるキャリア教育 ⇒ 各教科・科目の学習を将来の生活と結び付ける

- その教科・科目で学んでいる内容が活用されている場面を伝える
- その教科・科目を学ぶ面白さ・楽しさを伝える
- その教科・科目を学ぶことによって培われる能力・態度とそれらの意義を伝える

■ 総合的な学習の時間を通したキャリア教育 ⇒ 横断的・総合的学習や探究的学習

- ハローワーク、上級学校、経済団体、企業などの理解・協力のもと、体験的学習を実施
- 各部・年次ごと、あるいは年次オープンで、社会体験・自然体験などのテーマ学習を実施

■ 「特別活動」における取組み

- ホームルーム活動において、キャリア教育の視点での進路の時間を計画的に実施
- 学校行事や生徒会活動で、それぞれの特質を生かした体験的活動を実施

[キャリア教育で育成すべき力 = 「基礎的・汎用的能力」]

人間関係形成・社会形成能力

自己理解・自己管理能力

課題対応能力

キャリアプランニング能力

<学習指導要領を踏まえ、学校や地域の特色、生徒の発達段階に応じて設定していく>

高等学校におけるキャリア教育の目標

現実的探索・試行と社会的移行準備

- 自己理解の深化と自己受容
- 選択基準としての職業観。勤労観の確立
- 将来設計の立案と社会的以降の準備
- 進路の現実味と試行的参加

2・3年次のキャリア発達課題

- ・他者の価値観や個性を肯定的に認め、受容する
- ・学習活動を通して勤労観・職業観を育成する
- ・自己の職業的な能力適性を理解し、将来設計を図る
- ・進路実現に向けた課題を理解し、検討する

進学先・社会での活躍

人間関係形成・社会形成能力

自己理解・自己管理能力

課題対応能力

高等学校のキャリア教育

キャリアプランニング能力

中学校のキャリア教育

卒業年次のキャリア発達課題

- ・自己の能力適性を的確に判断し、卒業後の進路について具体的な目標と課題を定め実行に移す
- ・理想と現実の葛藤を通して困難を克服する
- ・さまざまなスキルを身に付ける

入学年次のキャリア発達課題

- ・新しい環境に適応するとともに他者との望ましい人間関係を構築する
- ・学習活動を通して自己の能力適性を理解する
- ・様々な情報を収集し進路選択の幅を広げる

「キャリア発達に関わる諸能力(例)」

「基礎的・汎用的能力」

(4領域8能力)

人間関係 形成能力	自他の理解能力
	コミュニケーション能力

人間関係形成・ 社会形成能力

- ・他者の個性を理解する力
- ・他者に働きかける力
- ・コミュニケーションスキル
- ・チームワーク
- ・リーダーシップ など

情報活用 能力	情報収集・探索能力
	職業理解能力

自己理解・ 自己管理能力

- ・自己の役割の理解
- ・前向きに考える力
- ・自己の動機付け
- ・忍耐力
- ・ストレスマネジメント など

将来設計 能力	役割把握・認識能力
	計画実行能力

課題対応能力

- ・情報の理解・選択・処理等
- ・課題発見
- ・計画立案
- ・実行力
- ・評価・改善 など

意志決定 能力	選択能力
	課題解決能力

キャリア プランニング能力

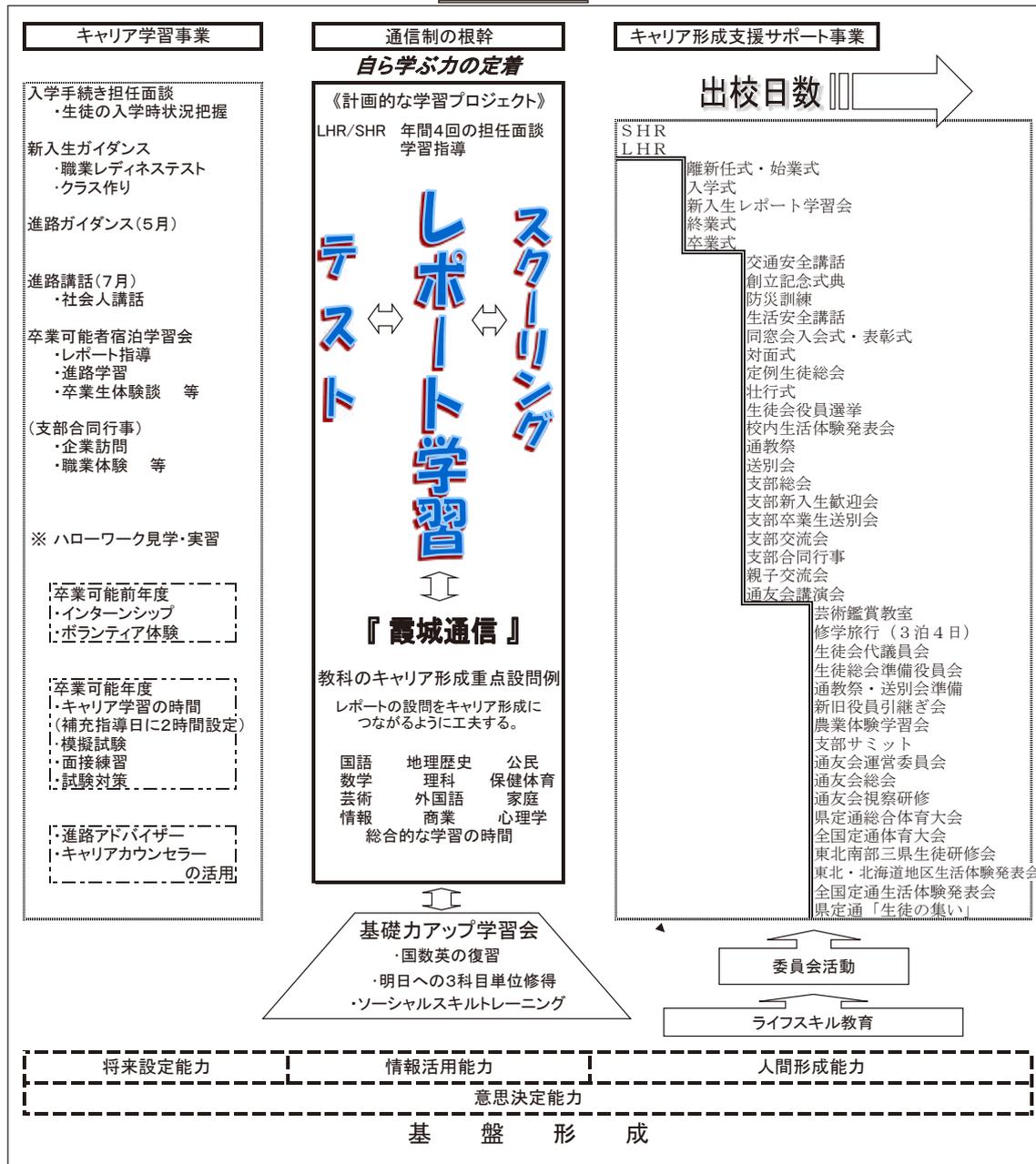
- ・学ぶこと・働くことの意義や
役割の理解
- ・多様性の理解
- ・将来設計
- ・選択
- ・行動と改善 など

2016 外部機関と連携したキャリア教育(定時制)

前期	後期	進路行事	関係機関等	進路サポート(講座)	進路サポート室(相談)	特別活動	関係機関	総合的な学習の時間	関係機関	進路講習・模擬試験等
4月	4/14	進路希望調査①								進路講習・模擬試験等 個別講習申し込み
5月	5/21 5/27	マネープラン学習会 進学説明会(保護者) 進路ガイダンス	東北労働金庫 キャリアプランニング株 若者就職サポートセンター	教員向けCS研修会①	5/31	LHR 進路学習①	5/26	卒「進路学習」① Ⅲ「ライフスキル」	5/17 5/17 年間:4時間×8日	面接小論文指導申し込み
6月	6/16	キャリアカウンセリング① (キャリアプランニング株)	若者就職サポートセンター					卒「進路学習」②	6/7 ハローワークs 講座2	卒 進研マーク
7月	7/1 7/25~28	求人票公開 三者面談 就職セミナー (桑名 暢氏)	7/1 県、活力あふれる高校づくり推進事業	SST講座① SST講座② 一面接講座4日間	7/7-8 卒業予定者相談活動開始	LHR 進路学習②	7/7	卒「進路学習」③ I・II 着こなし講座 作文模試	7/5 洋服の青山 学研	高2進研模試 卒 進研記述 オープンキャンパス 高1・2 夏季講習 卒 夏季講習 ~8/19
8月	7~8月 7~8月 8/22~30	応募前企業見学 高2インターナショナル 応募書類完成	山形商工会議所	教員向け合同研修会① (県教育センター・山科勝氏)	8/2			卒「進路学習」④ I 先輩の話を聞く	8/26 県、活力あふれる高校づくり推進事業	
9月	9/5~ 9/7 9/8 9/15~	応募書類発送 外部講師による模擬面接 進路希望調査② 就職試験開始	9/7 生涯学習サポート会 9/8 9/15~	教員向けCS研修会② SST講座③ SST講座④	9/1 9/7 9/23	LHR 進路学習③ 2年次・桑名先生の進路講座	9/15			卒 進研マーク
10月	10/5 10/12	未内定 再応募		SST講座⑤ SST講座⑥	10/5 10/12			Ⅱ「ライフスキル」 I・II「山形の企業を知る」①	10/4 後期:4時間×4日間	卒 進研記述 高2進研模試 高1進研模試
11月	11/7 11/15 11/17	キャリアカウンセリング② 未内定者:(キャリアプランニング株) 高校生のための就職面接会	若者就職サポートセンター 労働局・ハローワーク	SST講座⑦ SST講座⑧ 教員向けCS研修会③	11/1 11/15 11/30	やまがたのスペシャリストに 関くトップセミナー	11/24 県、キャリア教育推進 事業	I・II「山形の企業を知る」② I・II「山形の企業を知る」③ ※I~III「企業訪問」	11/11 11/8 講師:田中宣行氏 山形商工会議所・県活力~ 午前:自由隊ホール・フココン山形 午後:大船団・学カクサーズ	卒 進研マーク
12月	12/16 12/26-27	進路ガイダンス 次年度卒業 就職セミナー	12/16 ライセンスアカデミー 12/26-27 キャリアプランニング株	SST講座⑨ SST講座⑩ 教員向け合同研修会② (山形大学・三浦豪志一教授)	12/7 12/20	進路ガイダンス 演劇による意識啓発	12/16 県、活力あふれる高校 づくり推進事業	I・II「山形の企業を知る」④ 総合的な学習の時間発表会	11/14 講師:田中宣行氏	高1・2 冬期講習 卒 冬期講習
1月	1/12	センター試験激励会		SST講座⑪	1/25 次年度卒業予定者相談開始					センター試験 高2進研模試 高1進研模試
2月	2/17 2/7	高2企業説明会 合同就職面接会 外部講師による模擬面接	2/17 高校教育課・ハローワーク // 保護者が少ない場合は実施しない	SST講座⑫ SST講座⑬	2/9 2/16	卒年LHR:「離職防止・ 消費者センター講座」	2/17 ハローワークs 消費者生活センター			高1・2「春課題」
3月										

(2) キャリア教育総合実践プログラム (通信制)

通信制におけるキャリア教育の力点 学び続ける力の育成・他とつながる力の育成

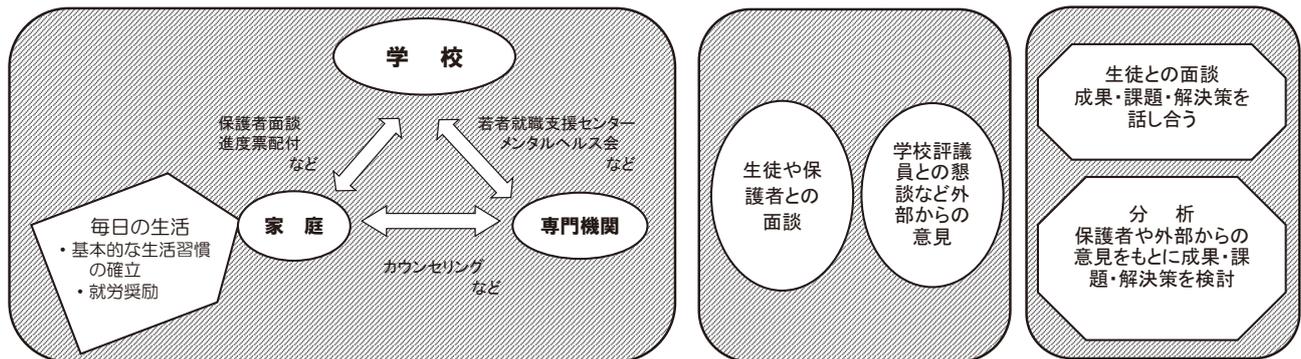


【計画】

【実践】

【評価】

【改善】



《 キャリア教育総合実践プログラム 》 入学年度 ～ 20単位めど ⇒ HR担任・教科担任との二者関係の重視

★役割を見つめる

発達段階		【自己及び他者への積極的関心の形成・発達、夢や希望、憧れる自己イメージの獲得、勤労を重んじる】											
自己評価		自己評価はA・B・Cの3段階で行う(担任面談を参考に)											
人間関係形成能力	自己の理解能力	自己理解を深め、他者の多様な個性を理解し、互いに認め合うことを大切に行動していく能力	自分の好きなことや嫌いなことをはっきり言う。友達と仲良く遊び、助け合う。お世話になった人などに感謝する。	自分の好きなところをみつける。友達の上いところを認め、励ましあう。自分の生活を支えている人に感謝する。	12月	自分の長所や欠点に気づき、自分らしさを発揮する。いろいろな積極的に参加し、自分と異なる意見も理解しようとする。	3月						
情報活用能力	コミュニケーション能力	多様な集団・組織の中で、コミュニケーションや豊かな人間関係を築きながら、自己の成長を促していく能力	あいさつや返事をする。「ありがとう」「ごめんなさい」を言う。自分の考えをみんなの前で話す。	自分の意見や気持ちを分かりやすく表す。友達や先輩の考えを理解しようとする。	12月	思いやりや気持を持ち、相手の立場に立つて考え行動しようとする。異年齢集団の活動に進んで参加し、役割と責任を果たそうとする。							
情報活用能力	情報収集・探索能力	進路や職業に関する様々な情報収集・探索するとともに、必要な情報を選択・活用し、自己の進路や生き方を考えていく能力	身近で働く人々の様子が分かり、興味・関心を持つ。	いろいろな職業や生き方があることが分かる。	12月	身近な産業・職業の様子やその変化が分かる。自分に必要な情報を探す。							
情報活用能力	職業理解能力	様々な体験等を通して、学校で学ぶことと社会・職業生活との関連や、今しなければならぬことを理解していく能力	係や当番の活動に取り組む、それらの大切さが分かる。	係や当番活動に積極的に参加し、働くことが楽しくてやる気が出る。	12月	施設・職場見学等を通して、働くことの大切さや苦労がわかる。学んだり体験したりしたことと、生活や職業との関連を考える。							
将来設計能力	役割把握・認識能力	生活・仕事上の多様な役割や意義及びその関連等を理解し、自己の果たすべき役割等についての認識を深めていく能力	家の手伝いや割り当てられた仕事・役割の必要性が分かる。	互いの役割や役割分担の必要性が分かる。日常の生活や学習と将来の生き方との関係に気づく。	12月	社会生活にはいろいろな役割があることやその大切さが分かる。仕事における役割の関連性や変化に気づく。							
将来設計能力	計画実行能力	目標とすべき将来の生き方や進路を考え、それを実現するための進路計画を立て、実際の選択行動等で実行していく能力	作業の準備や片付けをする。決められた時間やきまりを守ろうとする。	将来の夢や希望を持つ計画づくりの必要性に気づき、作業の手順がわかる。	12月	将来のことを考える大切さがわかる。憧れとする職業を持ち、今しなければならぬことを考える。							
意思決定能力	選択能力	様々な選択肢について比較検討したり、葛藤を克服したりして、主体的に判断し、自らにふさわしい選択・決定を行っていく能力	自分の好きなもの、大切なものを持つ。	自分の好きなこと、よいと思うことなどを考え、進んで取り組む。	12月	HR活動などで、自分のやりたい、やれそうな係を選ぶ。							
意思決定能力	課題解決能力	意思決定に伴う責任を受け入れ、選択結果に適応するとともに、希望する進路の実現に向け、自ら課題を設定してその解決に取り組む能力	自分のことは自分で行動しようとする。	自分の仕事に対して責任を感じ、最後までやり通そうとする。自分の力で課題を解決しようとする。	12月	将来の夢や希望を持ち、実現を目指し努力しようとする。							
特別活動	学校行事	4 離新任式 始業式入学式 新入生ガイダンス	5 通友会総会 進路ガイダンス	6 防災訓練	7 進路講話 生活安全講話①	8 進路講話 生活安全講話②	9 通友会研修会 芸術鑑賞教室	10 生活体験発表会 通教祭	11 通友会講演会 生活安全講話③	12	1 卒業式 送別会	3	
特別活動	生徒会行事 支部行事	各種委員選出 支部総会 対面式	生徒総会 支部合同歓迎行事	SHR SHR	SHR SHR	SHR SHR	SHR SHR	SHR SHR	SHR SHR	SHR LHR	SHR SHR	SHR SHR	
学習活動	レポート基準日	◎ 4月27日	◎ 5月22日	◎ 6月 8日	◎ 7月10日 ◎ 7月27日	◎ 8月17日	◎ 9月18日	◎ 9月 4日	◎ 11月27日	◎ 12月18日	◎ 1月 8日	◎ 1月 8日	
学習活動	学習指導	① 4月24日			② 7月10日		③ 9月 4日	④ 10月23日			⑤ 1月 8日		
家庭	担任面談 (保護者)				↔	↔	↔	↔	↔	↔	↔	↔	

《 キャリア教育総合実践プログラム 》 入学2年目 ～ 30単位めど ⇒ 他の生徒との複数関係の醸成

★役割を採る

発達段階	現実的探索と暫定的選択の時期 【肯定的自己理解と自己有用感の獲得、興味関心に基づく職業観・勤労観の育成、生き方や進路に関する現実的探索】	10月	11	12	1	2	3	
人間関係形成能力	自己評価はA・B・Cの3段階で行う(担任面談を参考に) 自己理解を深め、他者の多様な個性を理解し、互いに認め合うことを大切にして行動していく能力 多様な集団・組織の中で、コミュニケーションや豊かな人間関係を築きながら、自己の成長を果たしていく能力	自分の言動が相手や他者に及ぼす影響が分かる。 新しい環境や人間関係に適応しながら、人間関係の大切さを理解し、コミュニケーションスキルの基礎を習得する。	他者に配慮しながら、積極的に人間関係を築こうとする。	生き方や進路に関する情報を様々なメディアを通して調査・収集・整理し活用する。	体験等を通して、勤労の意義や働く人々の様々な思いが分かる。	様々な職業の社会的役割や意義を理解し、自己の生き方を考える。	進路計画を立てる意義や方法を理解し、自分の目指すべき将来をおおまかに計画する	自己の個性や興味・関心等に基づいて、よりよい選択をしようとする。 学習や進路選択の過程を振り返り、次の選択場面に生かそうとする。
情報活用能力	連絡や職業に関する様々な情報収集・探索することともに、必要な情報を選択・活用し、自己の進路や生き方を考えていく能力 様々な体験等を通して、学校で学ぶことと社会・職業生活との関連や、今しなければならぬことなどを理解していく能力	産業・経済等の変化に伴う職業や仕事の変化のあらましを理解する。 係・委員会活動に積極的に取り組み、そこで得たことを以後の学習や選択に生かす。	日常の生活や学習と将来の生き方との関係を理解する。	将来の夢や職業を思い描き、自分にふさわしい職業や仕事への関心・意欲を高める。	選択の意味や判断・決定には責任が伴うことなどを理解する。	よりよい生活や学習、進路や生き方等を目指して自ら課題を見出し、いくことの大切さを理解する。		
将来設計能力	役割把握・認識能力 計画実行能力	様々な進路や学習と将来の生き方との関係を理解する。 目標とすべき将来の生き方や進路を考え、それを実現するための進路計画を立て、実際の選択行動等で実行していく能力						
意思決定能力	選択能力 課題解決能力	様々な選択肢について比較検討したり、葛藤を克服したりして、主体的に判断し、自らにふさわしい選択・決定を行っていく能力 意思決定に伴う責任を受け入れ、選択結果に適切するとともに、希望する進路の実現に向け、自ら課題を設定してその解決に取り組む能力						
特別活動	学校行事 生徒会行事 支部行事 LHR等	進路講話 生活安全講話① 支部合同行事	進路講話 生活安全講話②	通友会講演会 生活安全講話②	通友会研修会 芸術鑑賞教室	生活体験発表会 通教祭	卒業式 送別会 各支部送別会	
学習活動	レポート基礎日 学習指導	◎ 7月10日 ◎ 7月27日 ◎ 7月10日 ◎ 7月27日 ◎ 8月17日 ◎ 9月18日 ◎ 9月18日 ◎ 10月2日 ◎ 10月23日 ◎ 11月27日 ◎ 12月18日 ◎ 1月8日	◎ 7月10日 ◎ 7月27日 ◎ 7月10日 ◎ 7月27日 ◎ 8月17日 ◎ 9月18日 ◎ 9月18日 ◎ 10月2日 ◎ 10月23日 ◎ 11月27日 ◎ 12月18日 ◎ 1月8日	◎ 7月10日 ◎ 7月27日 ◎ 7月10日 ◎ 7月27日 ◎ 8月17日 ◎ 9月18日 ◎ 9月18日 ◎ 10月2日 ◎ 10月23日 ◎ 11月27日 ◎ 12月18日 ◎ 1月8日	◎ 7月10日 ◎ 7月27日 ◎ 7月10日 ◎ 7月27日 ◎ 8月17日 ◎ 9月18日 ◎ 9月18日 ◎ 10月2日 ◎ 10月23日 ◎ 11月27日 ◎ 12月18日 ◎ 1月8日	◎ 7月10日 ◎ 7月27日 ◎ 7月10日 ◎ 7月27日 ◎ 8月17日 ◎ 9月18日 ◎ 9月18日 ◎ 10月2日 ◎ 10月23日 ◎ 11月27日 ◎ 12月18日 ◎ 1月8日	◎ 7月10日 ◎ 7月27日 ◎ 7月10日 ◎ 7月27日 ◎ 8月17日 ◎ 9月18日 ◎ 9月18日 ◎ 10月2日 ◎ 10月23日 ◎ 11月27日 ◎ 12月18日 ◎ 1月8日	
家庭	担任面談(保護者)	◎ 4月27日 ◎ 4月24日						

《 キャリア教育総合実践プログラム 》 入学3年目 ～ 50単位めど ⇒ 他の生徒との複数関係の構築

発達段階	現実的探索・試行と暫定的選択の時期	【肯定的自己理解と自己有用感の獲得、興味関心に基づく職業観・勤労観の育成、生き方や進路に関する現実的探索】	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
人間関係形成能力	自己評価 自己理解を深め、他者の多様な個性を理解し、互いに認め合うことを大切にして行動していく能力	自分の悩みを語せる人を持つ。										
自己の理解能力	コミュニケーション能力	多様な集団・組織の中で、コミュニケーションや豊かな人間関係を築きながら、自己の成長を果たしていく能力	チームを組んで互いに支えあいがながら仕事をやる。									
	情報収集・探索能力	進路や職業に関する様々な情報収集・探索するとともに、必要な情報を選択・活用し、自己の進路や生き方を考えていく能力	上級学校の種類や特徴及び職業に求められる資格や学習歴の概略が分かる。									
職業理解能力	職業理解能力	様々な体験等を通して、学校で学ぶことと社会・職業生活との関連や、今しなければならぬことを理解していく能力	将来の職業生活との関連の中で、今の学習の必要性や大切さを理解する。									
	役割把握・認識能力	生活・仕事上の多様な役割や意識及びその関連等を理解し、自己の果たすべき役割等についての認識を深めていく能力	自分の役割やその進め方、よりよい集団活動のための役割分担やその方法等が分かる。									
将来設計能力	計画実行能力	目標とすべき将来の生き方や進路を考え、それを実現するための進路計画を立て、実際の選択行動等で実行していく能力	将来の進路希望に基づいて当面の計画を立て、その達成に向けて努力する。									
	選択能力	様々な選択肢について比較検討したり、葛藤を克服したりして、主体的に判断し、自らにふさわしい選択・決定を行っていく能力	教師や保護者と相談しながら、当面の進路を選択し、その結果を受け入れる。									
意思決定能力	課題解決能力	意思決定に伴う責任を受け入れ、選択結果に適切するとともに、希望する進路の実現に向け、自ら課題を設定してその解決に取り組む能力	課題に積極的に取り組み、主体的に解決していくこととする。									
	学校行事	4 離新任式 始業式入学式 新入生ガイダンス	5 通友会総会 進路ガイダンス	6 防災訓練	7 進路講話 生活安全講話①	8	9 通友会研修会 芸術鑑賞教室	10 通友会講演会 生活安全講話②	11 12 1	2	3 卒業式 送別会	
特別活動	生徒会行事・支部行事	生徒総会 支部総会 支部合同歓迎行事 対面式	SHR SHR	SHR	SHR	SHR	SHR	SHR LHR	SHR	SHR	SHR	各支部送別会
	LHR等	SHR LHR	SHR	SHR	SHR	SHR	SHR	SHR LHR	SHR	SHR	SHR	
学習活動	レポート基準日	◎ 4月27日	◎ 5月22日	◎ 6月8日	◎ 7月10日 ◎ 7月27日	◎ 8月17日	◎ 9月18日	◎ 10月2日 ◎ 10月23日	◎ 11月27日	◎ 12月18日	◎ 1月8日	
	学習指導	① 4月24日			② 7月10日		③ 9月4日	④ 10月23日			⑤ 1月8日	
家庭	担任面談(保護者)				←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→	
	進路理解に向けての親が体験				←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→	

★進路を探る

3 研究について

(1) 現状と課題

① 定時制・通信制高校における生徒の現状

- ① 小中学校からの不登校経験者も多く、社会力が身につけていない生徒が多い。
発達障害・学習障害を持つ生徒が多い。
 - ② 勤労のモチベーション・自尊感情が低く、進路実現に課題のある生徒が多い。
 - ③ 生徒は多様な学習歴をもつため学力に大きな差があり、一斉に行う授業にも限界がある。進路目標達成を実現するのに課題を有する。
 - ④ 家庭の教育力が低く問題あるケースも多く、教員のかかわり方の難しい生徒も多い。
- ② 学びのセーフティーネットとしての定時制・通信制教育の充実の必要性。
- ③ 引きこもりなどを防ぐための社会力の育成の必要性。

(2) 事業概要

① 調査研究のねらい

- ① 進路アドバイザー（S S W的人材）やキャリアカウンセラーといった外部人材の活用が、定時制・通信制高校で学ぶ生徒の社会力向上や進路実現にどのような有効性を持つかを検証する。
- ② 外部機関との連携と協働により、定時制・通信制高校の組織的な問題解決力の向上を図る。

② 調査研究の概要

- ① 霞城学園高校を本県定時制・通信制課程の拠点校とし、県内5校の定時制・通信制課程を持つ県立高等学校を連携校とする。
- ② 拠点校に進路アドバイザーを週5日、キャリアカウンセラーを週1日配置し、生徒の相談活動など直接的な支援を行うとともに、キャリア教育システムの構築支援、生徒の就職の開拓や外部との連携の推進、ライフスキル・ソーシャルスキルトレーニング講座を教職員との協働のもと実施する。また、定時制・通信制の特色をふまえた「進路実現ハンドブック」の研究・開発を行う。
- ③ 外部人材については拠点校の研究をふまえ、連携校に必要に応じて派遣するなどして成果の普及を図る。
- ④ 取り組みの成果を検証し、充実させるため、有識者や県教委・労働関係機関等により構成される推進会議を年2回開催し、併せて成果の普及を図る。また、事業最終年度（平成29年度）には、研究発表の機会を設ける。

③ 期待される成果

- ① 多様な生徒に対応できる学校組織としての教育力の向上
- ② 外部人材や外部機関との連携と協働による教職員の指導力向上
☆到達点： 生徒の社会力向上のための取り組み（ライフスキル・ソーシャルスキルトレーニング講座など）のモデルケースづくり

◎外部人材の直接的支援による個々の生徒への支援の充実

☆到達点：進路未決定生徒の減少、効果を連携校に発信

④多様な学習歴、学力差に対応した指導システムの開発

☆到達点：大学進学者の合格率、就職内定率の向上

(3) 調査の具体的内容・方法

①実施時期・検討会議構成等

①平成27年度から3年間

「定時制・通信制課程における支援・相談体制の構築事業」

(外部機関の教育力を活用した学校と生徒の社会力の向上)

(多様な学習歴を持つ生徒の学力向上対応については平成28・29年度)

②霞城学園高校を拠点校に、県内定時制・通信制高校5校を連携校として実施

◎研究の充実、成果の普及などのため、有識者、県教委、労働関係機関をメンバーとした推進会議を設置

②霞城学園高校での教育課程上の位置づけ

①ライフスキル講座については総合的な学習の時間

②ソーシャルスキルトレーニング講座については特別活動と課外活動

③多様な学習歴を持つ生徒の学力向上の手立てについては課外活動

③施設・設備等

①進路サポート室の設置

平成27年度から、進路アドバイザー及びキャリアカウンセラーが生徒への相談活動などの直接的支援を行うための専用の部屋の確保

④研修

①講演・講義

教員の進路指導力の向上や生徒のソーシャルスキルアップ等を図るため、進路アドバイザー及びキャリアカウンセラーが講演・講義を実施

⑤効果測定について

①卒業年次生に対する相談活動の有意性を検証

②生徒のライフスキル・ソーシャルスキルの向上の検証

(生徒個々の社会力向上の状況を把握するシートの作成と活用)

③教員の連携・協働の実効性の検証

(成果ポイントの設定とチェックシート活用)

〔事業計画〕

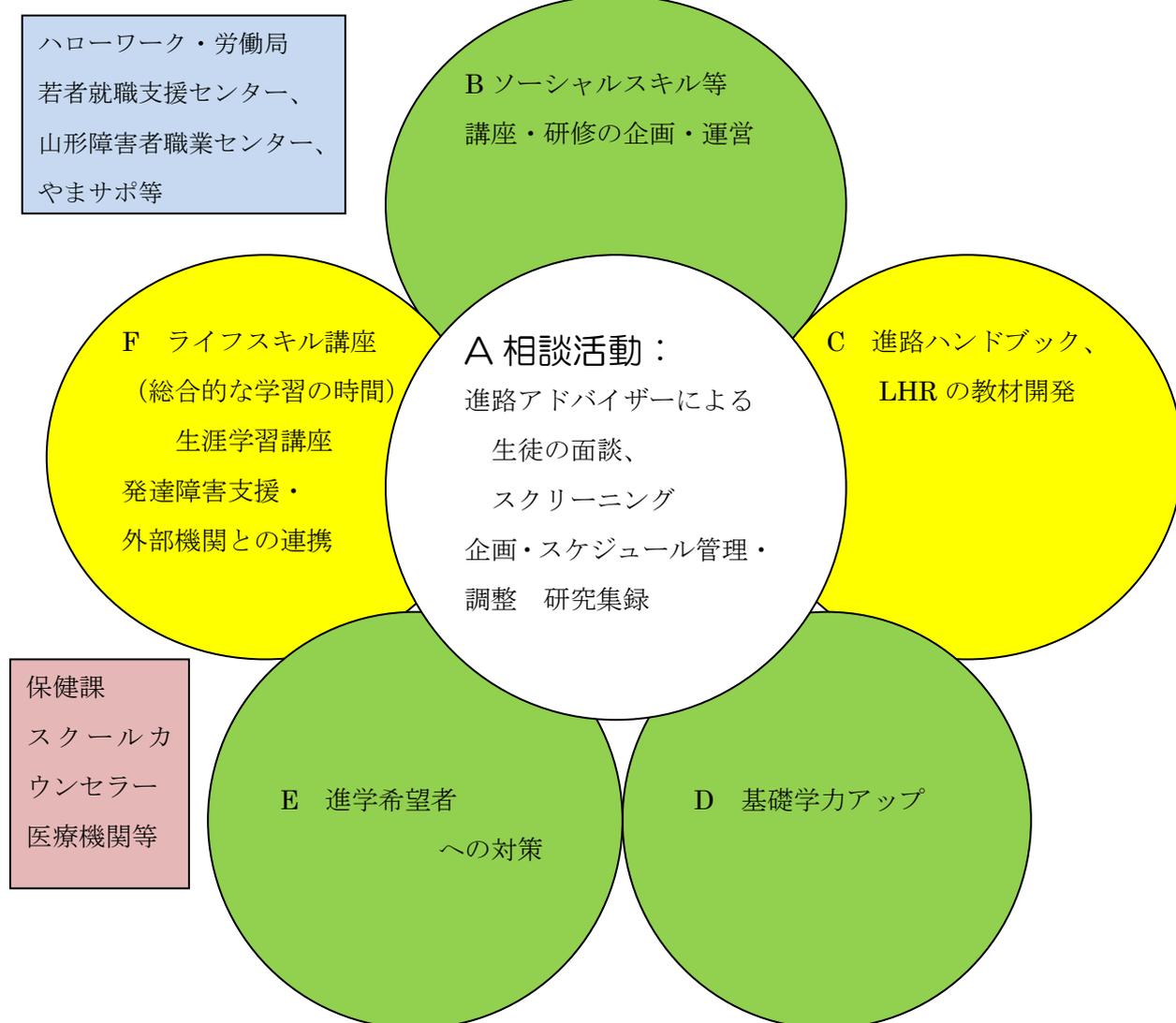
H27～3年間 「定時制・通信制課程における支援・相談活動の構築」

- ・外部人材の活用（H27～29） ◎定時制 ○通信制
- ・多様な学習歴を持つ生徒への対応（H28・29） ◎通信制 ○定時制

〔校内委員会〕

- 5月12日（木） 校内委員会①：28年度事業計画の確認
- 11月21日（月） 校内委員会②：小委員会の進捗状況
- 2月 2日（木） 校内委員会③：28年度事業報告・29年度事業計画

〔組織図〕



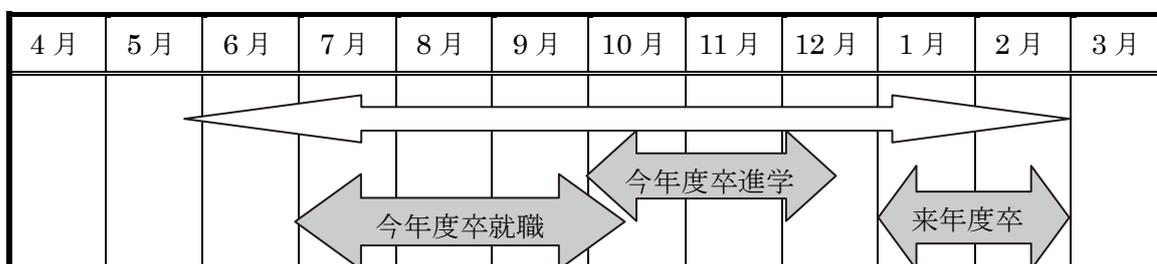
Ⅲ 事業報告（小委員会報告）

1 A 生徒の相談活動（定時制）

（1）生徒への直接支援の体制

今年度も昨年度から引き続きキャリアカウンセラー桑名 暢先生と、今年度からお願いした進路アドバイザーの尾形 淳子先生を中心に〈進路サポート室〉での生徒の個別の相談活動を行った。定時制については、昨年度をふまえ下記のような1年の流れで実施している。卒業予定者の初回は授業の空き時間をふまえ面談を組んでいる。（面談時間は20分程度）その後、必要に応じて予約を行うという形を取った。通信制は、担任が事前相談を実施した後に、面談を申し込むという形で進めている。

※白矢印：全生徒対象 / 網掛け矢印：主に指定学年中心



今年度は〈進路サポート室〉の認知も進み、低学年次でも気軽に相談に来るケースも見られた。このことは、キャリアカウンセラーの桑名先生に各部2年次のロングホームルームで進路学習を実施していただいたり、「就職セミナー」に加え「進学セミナー」を計画したりと、さまざまな試みを行った成果といえる。

また、卒業予定者には進路決定の負荷で心身の調子を崩す生徒が少なくないが、保護者・担任・教科担任のアドバイスの狭間で思い悩んだり、進学を前に緊張して混乱してしまったりという生徒が気軽に相談に来てサポートを受けられたことも成果といえる。

※担任との相談内容の共有についても、学校内グループウェアでの閲覧の形を取っており、担任との協力体制について理解が進んでいる。



(2) 相談事業の実態

①卒業予定者の進路決定状況

※決定率は決定者数/4月希望者数 決定者に「その他」は含まない。

	平成26年度					平成27年度					平成28年度				
	4月希 望調査	10月末 決定者	決定率 (%)	3月末 決定者	決定率 (%)	4月希 望調査	10月末 決定者	決定率 (%)	3月末 決定者	決定率 (%)	4月希 望調査	10月末 決定者	決定率 (%)	1月末 決定者	決定率 (%)
4大	10	1	10.0	7	70.0	7	3	42.8	5	57.1	10	1	10.0	5	50.0
短大	3	0	0	3	100	2	0	0	2	100	1	0	0	0	0
専門	25	16	64.0	24	96.0	13	4	30.8	10	76.9	14	3	21.4	15	107
就職	31	19	61.3	26	83.9	26	17	65.4	22	84.6	38	21	55.3	30	78.9
その他	10			(19)					(8)					(5)	
合計	79	36	45.6	60	75.9	48	24	50.0	39	79.2	63	25	39.7	50	79.4

※「その他」は、「アルバイト継続」「パート」「卒業目標」「予備校」「就業の必要なし(高齢)」等

以前、本校においては年度当初の希望調査の段階から「卒業目標」・「アルバイト継続」という生徒が見受けられ、卒業時には約20名(全体の30%)が進路先未定という課題があった。ここ数年は求人状況がよく、全体的な新規学校卒業者就職内定率も9割を超すような状況であるが、定時制・通信制については自ら進路に向かおうという意識を高める指導に苦慮していたため、本事業が開始してから「その他」が激減していることは最も大きな成果である。もちろん、生徒の抱えている事情はそれぞれ異なるため100%には至らない。それでも100%を目指して取り組むことが重要だと考えている。

就職については、今年度からキャリアカウンセリング・就職セミナー・進路ガイダンスを本事業とタイアップさせたため、昨年度より自らの進路を具体的に考えることがスムーズにできたようであった。個別面談の回を重ねることで、様々なアドバイスを受けながら職業観が備わっていき、就職試験に自信を持って臨むことができた。

定時制の卒業年次については、今年度は個別の面接担当の先生の指導に固執してしまう生徒が多く、進路サポート室の活用が少なかった。手詰まりになってから進路サポート室を訪れるものの、時間がないケースが多かった。このように進学は個別の指導が中心となるため、対策が後手に回ってしまうことがある。キャリアカウンセラーの桑名先生と何か対策を講じることができないかを相談し、12月に低学年次の「進学セミナー」を企画、その後の相談や学習に向かう姿勢の改善が見られた。

通信制については、担任の指導により活発な活用が見られ、就職・進学ともに丁寧な指導をいただき、自信を持って臨むことができた。

②次年度卒業予定者等の面談状況

次年度の相談活動を円滑に進めるため、平成29年度卒業予定者の面談を1月から開始した。12月に、進路アドバイザーと該当担任が事前の情報交換を行ってから始めている。相談活動もまずは「顔つなぎ」と気負わず開始したが、相談内容は昨年度よりも具体的である。

③相談状況

7月から1月末までの面談回数は、進路アドバイザーが述べ253回、キャリアカウンセラーが述べ34回。複数回の実施状況は下記のとおりである。

【進路アドバイザーの面談：回数別】 (人)

面談回数	今年度卒業予定者		来年度卒業予定者		在校生	計
	進学	就職	進学	就職		
2	3	8		4		15
3	3	6			2	11
4	1	5				6
5		5				5
6		2				2
7	3	4				7
16	1					1
計	11	30	0	4	2	47

(IV部3名を含む)

【キャリアカウンセラーの面談：回数別】 (人)

面談回数	定時制			通信制		計
	卒業予定者	在校生	教員	生徒	教員	
2	5	5	2	1	3	16
3	1			1	1	3
4	1			1		2
6	1					1
7				2		2
8					1	1
計	8	5	2	5	5	25

面談を複数回実施した生徒には丁寧な指導（志望企業・志望校の選択の方法から、それぞれの受験に合わせた対策）をしていただき、進路目標を早期に達成できたケースが目立った。

1 A 生徒の相談活動（通信制）

通信制は、基本的にスクーリングがある日曜日と水曜日、それに支部学習会がある木曜日の出校となる。もちろんそれ以外の曜日にも出校して学習をする生徒はいる。卒業予定者がレポートを提出してテストを受験し、卒業の目途がたつのは7・8月頃である。その時点で卒業後の進路を考え始めては間に合わないので、学習と並行して進路を考えておかなければならない。自学自習を中心として学習を進めるだけで手いっぱいになる生徒も結構見られる。

このような状況の中で、進路に対する意識の高い生徒10名がキャリアカウンセラーの桑名先生に面談を申し込み、指導を受けた。そのうちの4名について、下記に指導内容をあげる。

（1）指導内容

A（女子）：四年制大学進学希望（面談7回）

- ・AO入試に向けて、提出書類作成についてのアドバイス
- ・AO入試対策、面接指導
- ・小論文試験の対策等
- ・不合格後、推薦入試に向けての対策指導

B（男子）：四年制大学進学希望（面談2回）

- ・AO入試対策、口頭試問対策、
- ・何を学ぶか、大学が求めていることについてのアドバイス

C（女子）：短期大学進学希望（面談7回）

- ・推薦入試に向けて、提出書類作成についてのアドバイス
- 面接・小論文の対策

D（男子）：就職希望（面談6回）

- ・面接の作法や答え方
- ・志望動機と自己PRの仕方についてのアドバイス
- ・自分に対する否定をしないことで評価されること

面談をしていただいた生徒の中には、一回目の試験で合格した生徒もいれば、不合格で次の試験に向かってがんばっている生徒もいる。いずれの生徒も継続して桑名先生に面談をお願いした（している）ことから、面談がいかに役に立っているかが十分に理解できる。そして、一度失敗してしまうとなかなか次に向かうことができなくなってしまうことが時折見られる本校の生徒が、また次に向かっていこうとする姿勢が見られることは何よりもすばらしいことだと思う。最後に、何名かの生徒から聞いた面談をしていただいた感想をまとめる。

(2) 生徒の感想

- ・桑名先生との面談がなかったら、試験には合格できなかったと思う。
- ・就職に向けての気持ちの持ち方、面接試験での質問に対する答え方が参考になった。
- ・自分が受験する大学についての知識、大学がどのような生徒を求めているかなどを事前に聞くことができ、とても助かった。
- ・進学受験だが、将来につながる仕事の心構えを教えていただいたことは大いに役に立ったと思う。
- ・試験は不合格だったが、また次の試験に向かっていこうという気持ちになることができた。

【個別面談の具体的内容】 進路サポート室の記録より

○通信制 就職（19歳男子） 県内就職（製造） 内定

8月、担任より面談の申し出を受ける。本人は家族思いで「何としても自立したい」と、就職への強い決意を持った生徒である。会社見学を明日に控え、会社見学のポイントを知りたいということであったが、会社内容を把握していないという厳しい状況であった。HPなどで一緒に会社内容を確認し、会社見学のマナーを伝えた。会社見学後は更に就職に対する意欲を高め、就職試験に向かうことになったので、桑名先生と連携を取って志望動機の作成や自己PR等をサポートした。その後は面接指導に重点を置いたサポートを行った。桑名先生に勤務日以外も来ていただいて、自信が持てるまで丁寧に指導していただいた。内定を得ることができたのは、担任の熱心なサポートを本人が受け止め、挑戦する意欲を持ち続けた結果と思える。

(キャリアカウンセラー7回、進路アドバイザー7回)

H28 ソーシャルスキルトレーニング講座

回	月日	曜日	担当者	テーマ	内 容
1	7月7日	木	桑名 暢	就職準備対策講座 志望動機&会社訪問	<ul style="list-style-type: none"> 志望動機を書く際のポイント 会社訪問の重要性
	7月8日	金	桑名 暢	就職準備対策講座 志望動機&会社訪問	<ul style="list-style-type: none"> 志望動機を書く際のポイント 会社訪問の重要性
2	7月21日	木	桑名 暢	自己PR作成講座	<ul style="list-style-type: none"> すぐできる自己PRの作り方 面接官が言ってほしい自己PRとは
3	9月7日	水	桑名 暢	わかりやすい話し方のコツ	<ul style="list-style-type: none"> 話しをする際の準備や相手の気持ちを考えることの大切さについて
4	9月23日	金	桑名 暢	敬語の大切さ	<ul style="list-style-type: none"> 敬語の覚え方や使ってはいけない言葉の違いについて
5	10月5日	水	桑名 暢	4つのタイプでわかるコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> 人との付き合い方をタイプ別に学ぶ
6	10月12日	水	桑名 暢	効果的なメモの取り方	<ul style="list-style-type: none"> 相手にも自分にもわかりやすいメモの取り方について
7	11月15日	火	桑名 暢	報告・連絡・相談の意味	<ul style="list-style-type: none"> 誰にでもできる報告・連絡・相談について
8	11月21日	月	桑名 暢	ビジネスマナーを知る①	<ul style="list-style-type: none"> 学生と社会人（企業人）の違いについて
9	12月7日	水	桑名 暢	ビジネスマナーを知る②	<ul style="list-style-type: none"> 知っておくと恥をかかない3つのマナーについて
10	12月20日	火	桑名 暢	気配りのススメ	<ul style="list-style-type: none"> 相手に喜んでもらえる気配りの仕方について
11	1月25日	水	尾形 淳子	自分を知ることの大切さ	<ul style="list-style-type: none"> 自分のことを知るための方法について
12	2月9日	木	尾形 淳子	ストレスチェック&解消法	<ul style="list-style-type: none"> ストレスを感じたときにおこる問題点 気軽にできるストレス解消法について
13	2月16日	木	尾形 淳子	上手な聞き方・話し方	<ul style="list-style-type: none"> 話題づくりの方法 好まれる聞き方について

【時間】 11:30~12:20 / 14:55~15:40

※午前・午後同じメニューをしますので都合のつく方に来て下さい。

【場所】 66教室

★13回シリーズですが、メニューを見てこの回だけ出てみようかな?でもOKです。

★参加は誰でも可、人数制限もしないので興味があったら来てみてね。



2 B 講座・研修（定時制）

（1）ソーシャルスキルトレーニング講座（SST）

昨年度、その有用性が評価された「ソーシャルスキルトレーニング講座」を、今年度は前述のとおり全13回で計画した。昨年度は8月末からの開始であったが、2年目ということで7月からスタートすることができたため、初回は「志望動機の書き方」を中心に就職の準備対策とした。1～10回はキャリアカウンセラーの桑名先生を講師に、「就職試験の実質的なスキル」「就職してから役立つスキル」、11～13回は進路アドバイザーの尾形先生を講師に「自己理解」「コミュニケーションスキル」という内容で実施した。

昨年度、その有用性を踏まえ有識者である委員の方からも「単位化」した方が生徒は参加しやすいだろうというご意見を頂戴した。可能であれば、参加者も今以上に増えると思われるが、カリキュラム上難しく、今年も午前・午後に各1回開講し、生徒の意志による空き時間での参加を促すことになった。内定後の参加人数の減少と、午前の部の参加人数が少ないことが今後の課題である。

①参加状況

		回												
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
生徒	定時制	34	33	19	8	13	13	4	5	11	9	8	6	5
	通信制	5	3	3	6	6	1	1	2	3	2	2	0	0
	計	39	36	22	14	19	14	5	7	14	11	10	6	5
教員	定時制	6	5	4	3	2	3	7	5	7	7	4	8	7
	通信制	7	2	1	1	1	1	0	1	0	0	1	0	0
	計	13	7	5	4	3	4	7	6	7	7	5	8	7
合計		52	43	27	18	22	18	12	13	21	18	15	14	12

参加状況は上記のとおりである。2年目を迎え、生徒の初回からの反応も良く、自らの進路達成に対する意欲が感じられた。「役に立つ」「自信が持てた」とアンケートにもあったとおり、参加生徒の感想の評価はすべてA評価であった。（振り返りシート評価より）通信制では、この講座のためだけに来校したという生徒もいた。

1月末までに、定時制Ⅰ部23名・Ⅱ部26名・Ⅲ部5名、通信制Ⅳ部17名の計72名の生徒が自主的に参加した。7割は今年度卒業予定者（就職6：進学4）であるが、残り3割は低学年次の生徒であり、生徒から必要な講座として受け止められていると感じた。参加者は各回の終了後に「振り返りシート」を記入している。その内容を抜粋した。



②振り返りシートから

- 第1回
- ・志望動機を書くための心構えが出来た。これからは就活にたくさんの時間をとってより良いものにしていきたい。悔いの残らないよう残り数か月頑張りたい。
 - ・印象は面接だけで決まるとばかり思っていた。しかし、企業の方はその他の場面もしっかり見ているということを知りました。
 - ・志望動機を書くのに苦手意識があったが、今日聞いたコツを生かして書きたいと思いました。企業見学に行った時に良いところをたくさん探していきたい。
- 第2回
- ・自己PRとは「自分は何が出来た」ではなく「自分は何が出来るので、それをこれからどうやって活かしていくか」「自分はこの会社でこんな人になりたい」を伝えることだと聞いて目からうろこだった。
 - ・目標をはっきりさせて、自分を見つめ直して、単なる自己紹介ではなく、企業が聞きたくなるような自己PRを作りたいと思った。
 - ・自己PRなどはいままで書くのが面倒だと思ったが、書いてみたいと思った。働いてみたいと思った会社を見つけ、個別指導も始まったので、これからの本格的な活動にとっても役に立つと思った。良い話を聞くことができた。
- 第3回
- ・結論から話すことで、相手がききやすい話し方を学びました。話し上手な人を目指していきたいと思います。
 - ・私は発言が長くなりすぎるので、話しやすい文字数や時間を知ることができて良かったです。
 - ・相手のスピードに合わせてたり、間を取ることを意識していなかったので、面接で活かしたいと思った。
- 第4回
- ・社会人になる前に、今アルバイトをしている所や学校の先生と話す時も感謝の心を忘れず、丁寧な言葉づかいを意識したい。
 - ・敬語は言葉づかいだけでなく、気持ちも大切だと知りました。「でも～」と言ったら、相手には否定になると知り、驚きました。これから気を付けたいと思います。
- 第5回
- ・今日の講座を聞いて、自分はアナライザーとサポーターの中間だと思いました。いろんなタイプの人と接することができるように頑張っていきたいです。
 - ・様々なタイプの人上司になった場合の対応の仕方が具体的にわかった。
 - ・4つのタイプがあることを初めて知りました。円滑な人間関係を築けるように頑張りたいと思います。
- 第6回
- ・これまで自分のメモは単語だらけだった。文章で書くように心がけていきたい。その日何があったかなど、書き留め方を学べて参考になった。伝言メモの形式を今、覚えることができ良かった。
 - ・メモをする時、簡単にしておいたほうが良いと思っていたけれど、今日の話聞いてより詳しく書くほうが大事だと分かった。自分以外の人に伝える時のポイント

トを知ることができて良かった。

- 第7回
- ・学生と社会人だけでなく、社会人と企業人の違いを学べて良かった。時間とお金の使い方を頭に入れて仕事をしていきたいと思いました。
 - ・学生と社会人の違いがあり、さまざまなメリット、デメリットがあつて、社会人でもルールの守りや基礎能力を上げることで社会でも自分の評価が上がることを学んだ。
- 第8回
- ・進学と就職の場合を分けて知ることができ、進学先でやるべきこと、職場でやることを明確に知ることができた。
 - ・報告と連絡が一緒のものだと思っていましたが、全く違うものだと知りました。また、社会人がメモをとる理由や報告をきちんと入れる大切さを学びました。
- 第9回
- ・7つの言葉を使えるようになりたい。「はい」と言えるように習慣化していきたい。
 - ・形式ではなくまず心からということが一番の学びになりました。習慣化していきたいです。
 - ・今日話していただいた内容は、就職だけでなく人と関わる上でとても大事なことだと感じました。今日のお話をもとに生活して、信頼してもらえそうな人間になっていきたい。
- 第10回
- ・気配りと目配りはセットだと初めて知りました。私もこれから社会に出たら「失敗」ではなく「経験」をたくさんしていこうと思います。
 - ・気配りができるようになるには目配りと気配りが大切だということが分かった。スマホをする時は下ばかり見ないで、周りの人の顔を見るように心掛けたい。
- 第11回
- ・結論からパッと書いてあつて良かった。人のせいにするのではなく自己責任としてこれから行動したい。
 - ・自分の性格を見直したとき、意外と負けず嫌いなところがあると気づいた。人と関わることを怖がってはいけなと感じた。
- 第12回
- ・今の自分の状態を知ることができました。環境の変化にストレスを感じる人が多いのでそのストレスをどう緩和していくか、これからの課題になると感じました。
 - ・ストレスにもいろいろな種類があることということがわかった。ストレスはすべて脳が感じていることがわかった。セロトニンを増やす努力をしたい。
- 第13回
- ・今まで授業で眠くなるのは睡眠をとっていないだけだと思っていたが、目標を持って聞くといいことがわかった。これからやろうと思う。
 - ・好まれる聞き方について目線が大切だということを改めて知りました。これからたくさんの人と話し、聞くことになるとは思いますが、「感謝」して接したいと思います。
 - ・私は人と上手に話すことが出来ないので、話を誰よりも多く聞くことでコミュニケーションを取り入れたいと思いました。「スイミー」の絵本の朗読は、以前読んだことがあったので懐かしかったです。

(2) キャリアカウンセラーによる職員研修会

「キャリア教育スキルアップ講座」(講師：桑名 暢 氏)

定時制は各部の授業を4時間保障するため、時間割において放課後はなく、教職員の会議・研修が組みにくい。そのため、定期考査の際に1時間程度の職員研修会を組んでいる。

○第1回 5月31日(火) 「志望動機の書き方講座」

志望動機の書き方については、指導する教員の研修を行って共通認識の上で進めることが必要であるため、昨年度から計画してきた。指導が本格化する前に教員にも周知できたことは有効であった。

平成28年度キャリア教育スキルアップ講座①
～志望動機の書き方講座～

キャリアカウンセラー
桑名暢

◆志望動機を完成させるまでの流れ◆

- ①生徒への質問(聞き取り)
⇒なぜこの仕事を選んだのか？(過去法についての確認)
⇒なぜこの会社？(噂話や思い込み？についての確認)
- ②応募する会社の良いところを箇条書きで書く
⇒「ここが良いと思ったので働きたいと思いました。」という流れにするため
- ③企業合同説明会や会社訪問の際に企業側から言われたことをメモさせる
⇒②+「また、会社訪問の際に…」という流れにするため
- ④曖昧な表現の確認(様々な…たくさん…等)の確認
⇒あった場合は具体化させる
- ⑤怪しい表現(専門用語)の確認
⇒理解しているかどうか質問をする

◆企業側が志望動機で見るポイント◆

- ①職種・業種に対する理解度
- ②業務内容に対する興味関心
- ③本人の意志
- ④家族以外の人からのアドバイス

◆志望動機の書き方についての質問事例◆

- ①家から会社が近いというのは理由にならないのでしょうか？
- ②「会社がキレイ」「将来性がある」は理由にならないのでしょうか？
- ③生徒が志望動機が書けないと言っています。どうすればいいのでしょうか？
- ④「親から勧められた」は理由になりませんか？
- ⑤その会社の良いところがわからないと言っています。どう書かせればいいのでしょうか？
- ⑥文章が書けない生徒にはどこまでやってあげたらいいのでしょうか？



○第2回 9月1日(木)「面接指導時の注意点と効果的な指導方法について」

9月16日からの就職試験を前に、進路課職員を生徒に見立てた面談を行い、個人・集団面接のポイントを研修した。

【配付シート】より

①個人面接（就職試験）について

Q.今日はここまでどうやって来ましたか？

Q.高校生活で頑張ったことを教えてください。

Q.長所と短所を教えてください

Q.志望理由をお願いします。

Q.会社に入ってからやりたいことを教えてください。

⇒

②集団面接（就職試験）について

Q.あなたの性格を一言をお願いします。

Q.自己PRをお願いします。

Q.質問はありますか？

⇒

③個人面接（進学）について

Q.志望動機をお願いします。

Q.学校生活で頑張りたいことをお願いします。

Q.卒業後の希望を聞かせてください。

⇒

○第3回 11月30日(水)

「ロングホームルームに活用できる進路学習（アクティブラーニングの試み）」

「アクティブラーニング」という言葉は理解していても、実際どう展開していいかわからないという声も多く聞かれる。今回の職員研修会は、連携校で実施したソーシャルスキルトレーニング講座からロングホームルームで活用できるものを紹介していただいた。

(3) 職員合同研修会

【平成27年度】

①平成27年度 第2回「職員合同研修会」

講演「生徒の多様性に応じた教育支援」

講師：星槎名古屋中学校校長・星槎大学 共生科学部 特任講師 安部 雅昭 氏

日時：平成28年 3月8日（火） 9：30～11：00

不登校・発達障害の小中高校生へのソーシャルスキルトレーニングなどの教育活動の第一人者である先生をお招きし、主に「不登校（経験）や発達障害等、多様な生徒への進路支援、学習支援」をテーマとして講演していただいた。

先生が提示したいくつかの問題に取り組み、言われたことができない気持ち、生徒の困り感を体感するという貴重な経験をさせていただいた。板書や授業の進め方について支援のあり方を考える良い機会となった。

※開催時期の都合で昨年度の研究集録に掲載できなかったため今年度掲載。



講演に関する本校からの依頼内容が多く、本日のテーマ②ソーシャルスキルトレーニングについては時間が足りなかった。「お願いします」「ありがとう」「ごめんなさい」の三つのことばが大切というお話にまとめていただいたが、ぜひ続きを聞く機会を持ちたいと思う内容であった。

【平成28年度】

校内委員会において、通信制から「定時制と通信制では求める講演の内容が少し違うので職員合同研修会を別々に実施できないか」という要望があった。昨年度は合同で行ったが、その要望を受け1回目は合同、2回目は別々の実施を計画した。

本校定時制ではこれまでも「わかりやすい授業」を研究のテーマとして研究授業を行ってきた。また、21年度、22年度の文部科学省の研究委託事業「発達障害のある生徒への支援事業」の研究をもとに〈ユニバーサルデザイン〉という共通認識を全職員が持つことも確認してきた。この度、28年度から本事業の「多様な学習歴を持つ生徒への対応」の研究を進めるにあたって、D委員会を中心として〈探究型学習〉の視点から授業を研究する試みを行うことを考えた。しかし、「探究型、アクティブラーニングなどの用語がいざ実践となるとピンとこない」というのが現状であり、自己表現することが苦手な本校の生徒にとってどうアプローチすべきかの研修が必要ということから、合同研修会のテーマとすることになった。

①平成28年度 第1回「職員合同研修会」

講演 「探究型学習の授業づくりの基礎～生徒の基礎学力向上を目指して～」

講師：山形県教育センター研修課 指導主事 山科 勝 氏

日時：平成28年8月2日（火） 10：00～12：00

第1回の職員合同研修会では、中央教育審議会の答申、学習指導要領の改訂を踏まえ、小・中学校の具体的な授業における児童生徒の姿から授業のアプローチを示していただいた。事前の打合せで、「本校には自己表現が苦手な生徒が多く、現在行っている授業でも対話することや発表することが負担になってしまうという状況のため、本校には向いていないのではないか」という話をしていただいていた。それに対して講演の中で、山科先生から「方法やスタイルに縛られることはなく、授業の際に生徒の頭の中がフル回転するような授業であればいい」というアドバイスをいただいた。目から鱗が落ちるといって大げさかも知れないが、本校の生徒に合わせた探究型授業がイメージしやすくなったと感じた。夏休み明けから始まる研究授業に向けて有効な講演となった。

②平成28年度 第2回「職員合同研修会」

講演「生徒の多様性に対する学習支援のあり方—探究型学習の視点から—」

講師：国立大学法人 山形大学大学院教育実践教育科 教授 三浦 登志一 氏

日時：平成28年12月27日（火） 9：30～11：30

前述のとおり、定時制では校内研究授業を6月の2週間に集中して行っていたが、今年度は「探究型学習を活用した指導実践の研究」をテーマとし、8月22日～11月25日に期間を広げて実施した。当初は期間が長いため、合評会は各教科で行い、全体では行わないという計画であった。しかし、せっかくの取り組みを全体のものとする必要があるのではないかということから、「職員合同研修会」を活用し、前半に合評会、後半にご講演をいただくことを考えた。三浦先生には前半の「本校生に身につけさせたい力は何か」をテーマにグループに分かれてアクティブラーニングを体験するところから見ていただき、まとめとしてご講演をいただいた。

※資料の具体的事例は、個人情報に配慮して掲載しないこととする。



2 B 講座・研修（通信制）

(1) 「キャリア学習①」

事業名 平成28年度 キャリア学習①
日時 平成28年 6月22日（水）6～7校時（14：25～16：05）
講師 桑名 暢 氏

学習内容

《求人票の見方》

1 はじめに～私の原点は通信制高校～

以前、県外の通信制高校で就職支援を行ったことがあるが「〇〇への進学は難しい」などの教員の思い込みで、就職・進学の別を問わず、生徒の進路が閉ざされており、憤りを覚えた。

2 求人票を見る前に～条件と優先順位を考えること～

高校生に限らず、条件と優先順位を考えてから求人票を見ないと仕方がない。ただし、これらはあくまでもその人なりの価値観であり、人それぞれのもの。必ず一人だけで考えてほしい。

私は、誰からの相談でも、その条件を否定せず、合う求人を探すことにしている。自分の描いた条件を否定されるほど辛いことはないと思うからである。

①給料

「相場」ではなく、どれだけ財布の中にあれば満足かという「価値観」の問題。高校生でも、県によっては「30万円」という仕事が存在する。

②勤務地

これもまずは自分の価値観で。周囲から言われない状態で自分ほどの範囲でならば仕事が可能か、というところから出発する必要がある。

③仕事内容

「ヤリタイコト」の立場からだけでなく、自分にとっての「ヤリタクナイコト、とっつきにくいこと」の面からのアプローチも必要。

学校はある意味辛い部分がある場所で、必修科目など、苦手なことでもやらなければ卒業できない。一方、仕事ではヤリタクナイコトや苦手なことを選ばないことも可能。

以前、就職支援を行った際に、25歳の女性が「人に会いたくない」と言っていたので、全く人に会わない仕事を探した。見つかったのは陶芸の仕事で、車を降りてから15分ほど歩いた山中にある窯にこもって作品を作り、取引先に出荷するものである。作品は梱包して指定の場所に置けば運送業者が持って行くので、他人と全く会わずにできる仕事であった。しばらくして会いに行くと、「他人と関わるのが苦手」であり「他人と会いたくない」ということではないと話してくれた。この女性は、苦手なことに目を向けること

で道が開けた。もしも「人に会いたくない」で「仕事がない」と一蹴されていたら、このよ
うな道は開けなかった。

④休日

これも価値観。「週末が休み」ではなく、「平日に人が少ない場所をゆっくりと」の方が
いいという考え方も。

以上の①～④を順位づけたうえで求人票を見ると、楽に仕事を探せる。条件を変える場合
も、それはあくまでも自分次第であり、他人が口を出すものではない。

仮に条件と順位づけを考えずに求人票を見たら、知っている会社の求人票のみを見て「いい
会社」と捉えることになる。あくまでも「いい会社」とは「自分の条件に合う会社」であり、一般
的な知名度は何の問題にもならない。

3 「人」として採用してくれる会社を～「労働力」としてしか見ない会社との違い～

現在の労働市場は全般に人手不足ぎみである。アルバイトの時給は山形が仙台よりも高い
傾向にあるが、仙台には大学や専門学校が多く「何となく若い人がいる」状態にあり、募集し
やすい状況にあるためである。山形はそれよりも人が少ないので、アルバイト確保のため、
条件によっては時給1,000円以上もある。

アルバイトは「お金をもらえればいい」や「ずっと続けるものではない」という割り切りがあ
れば「労働力」でも構わないと思うが、これは1つの見方である。「労働力」としてしか見てい
ない会社は、何年経っても同じ仕事を担当させ、給料が上がったタイミングで雇い止めにす
る場合がある。

この4月、次のような相談の事例があった。労働力としか見なされていない典型である。
「5年間、あるチェーン店でアルバイトをしていた。3月21日、“そろそろ正社員になって
くれないか”という話があったが、3月30日に“明日から来なくていい”と言われた。」

一方、「人」を採用する会社は、その姿勢が求人票にあらわれ、文章量が1つの目安になる。
私の会社では今年、2年ぶりに1人を採用したが、求人票を書くのには非常に時間がかかる。
その求人票で応募する人は少ないかもしれないが、思いのある人が来ると考え取り組んでい
る。

「労働力」として採用するか、「人」として採用するかを見抜くには、会社訪問や就職面接会
等の機会に、次の質問で簡単にわかる。

「私は3年後、この会社でどうなっていればいいでしょうか。」

この質問に対し、熱心にビジョンを語ってくれる会社は、間違いなく「人」として見て、育
てようとしている会社である。適当な答えや内容が曖昧な場合、または「あなた次第」と言っ
ているような会社は、間違いなく「労働力」を採用しようとしており、勧められない。

4 自分の武器を持ち、その使い方を身につける

現在は辞めていく人も多く、人手不足の中、多くの業界が人材を探している。そのため転職する人も多いが、実現の可能性は広がっている。

①以前の職場で多くの役割を持っていた人（例：5年間勤める中で10の役割を持った）

②1つのことをやりとげた（例：3年の間、毎月必ず30件の飛び込み営業を行った）

これらの結果や数字に残る成果は、必ずしも求められない。仕事は点数だけで測られるものではないので、継続して何かをやり続けた人に会社は興味を持つものである。高校の学習についても同様で、長時間学習していたこと自体にも、会社は興味を示す。

「通信制高校を出た」ということも大きな武器になる。一般に通信制高校はなじみが薄いので、そのしくみについて説明する必要がある、それを聞くだけで「この人にどんな仕事を任せるか」というイメージを持つことができる。通信制高校の苦勞を話すと、それ自体が武器となる。このように、実際に仕事をするに当たって、自分が持っている武器に気づき、それをどう使いこなすかを知ることは重要である。

5 ハローワーク求人にある安心感～無料求人情報誌には問題がある場合も～

ハローワークに求人票を出す場合、最低賃金や社会保障等、法令で必要な最低限の条件すべてを満たす必要がある、これらが満たされないものは受理されないことになっている。さらに、仮に求人票と条件が違う場合、ハローワークから改善の指導をしてもらうことも可能である。

一方、無料求人情報誌の場合、仮に条件が違っていても、情報誌の発行元には指導する権限等はなく、自己責任となってしまう。無料求人情報誌はあたりをつけるのにはいいが、ハローワークを通して求人情報を探すことを勧めたい。

人手不足の時代にあっても「できれば安く使いたい」という発想の会社も多い。が、このような求人では賃金が上がった頃に解雇されることも多く、流れに乗る必要はない。

《履歴書の書き方》

1 見やすい文字で正確に、が大前提

履歴書や願書を書くときには、読む側が読みやすいように書く必要がある。そのためには、同じ大きさの文字を、等間隔で揃えて書く必要がある(文字の大きさは、相手に多少老眼が入っている可能性も踏まえること)。小さい字でびっしりと書いても、読んでもらえない可能性がある。

ある高校で、マス目の下書きを入れたうえで生徒に履歴書を書かせたところ、文字の幅も揃ったことで見やすくなったという評価があった。ひとつの方法である。

また、文章中の誤字や脱字は減点の対象となる。受験生の責任だけでなく、チェック機能が働かなかつたと見なされ、学校側も評価が下がってしまう可能性もある。

2 どれだけ時間とエネルギーを掛けたか、が最大の差別化

履歴書や願書で、見る側は最初に名前と写真に注目する。この部分は第一印象と言っている。名前を見ただけで、どれくらい時間をかけてこの履歴書を書いたかがわかる。さらに言えば、履歴書のどこで、どれくらい休んだかもわかる。字の上手・下手ではなく、どれだけ丁寧に書こうとしているかが大事で、その点は見る人には確実に伝わるものである。

写真については、採用側は700円程度のスピード写真を見飽きている。写真館では撮り直しや修正をしてくれるだけでなく、その人の肌の色に合わせて背景を替えてくれる場合もある。

3 志望動機は材料集めから～自分にしか書けない、興味を持ってもらうような内容に～

志望動機は、材料がなくては書くことができない。材料は必ず自分で集める必要があり、その人にしか書けない志望動機につながる。

会社の立場からは、志願者が自分たちのどこが好きなのかに興味がある。しがたって、材料集めには会社のいいところを探すのが重要である。そのためには次のような視点があげられる。

①誰の役に立っている会社か(どんな会社でも、必ず誰かの役に立っている)

②その会社のどんなところに興味を持ったのか

③会社訪問時の印象

働いている様子を見た印象や、その会社が大切にしていること等のメモが、そのまま志望動機の材料になる*。ただし、「熱心に働いている」などの抽象的な言い方は避けること。何を見聞きしてそう思ったか、話を聞いた相手と日時等、具体的に。

*○月△日に××さんから△△という話を聞き、自分もその一員になりたいと思った等志望動機を書く際は「なぜその業界か」ということは不要。例えば、製造業にはものづくりが嫌いな人はそもそも応募しないので、志望理由に「私はものづくりが好きで…」等は

いらない。

会社について調べていくと、その会社が好きになってくる。そうすることで会社の人が興味を持つ内容になっていき、会社からも大切にされるものである。

志望動機の書き方 Q&A

①書き出しがわかりません

→「私がこの会社(仕事)を選んだ理由は…」のような形で書くと書きやすい。

②「家から近い」が志望理由になるのでしょうか？

→会社からすると「遠かったら志望対象にならないのか？」という疑問が生じるため、第一の志望理由にはならない。3番手くらいなら書いても大丈夫。

③会社のいいところを探していますが、見つかりません

→それでも探す。どうしても見つからなければ、その会社には志望しない方がいい。

④企業を選んだ理由がなかなか書けません

→会社のいいところを書けば、それが理由になる。

⑤業種を選んだ理由は本当に不要なのでしょうか

→会社を選んだ理由がしっかりしていれば十分。

⑥特別なことを書けば印象に残りやすいのでしょうか

→特別な内容は不要。奇をてらう必要は全くない。

(2)進路講話

事業名 平成28年度 進路講話

日時 平成28年 7月10日(日) 4校時(11:30~12:15)

講師 桑名 暢 氏

講話内容

去年から霞城学園高校にキャリアカウンセラーとして週1回勤務し、ソーシャルスキルトレーニング講座なども担当している。配布している経歴は会社のスタッフが作ったもので、これだけを見ると引いてしまう感覚があるかもしれないが、実際は大したものではない。ただ講演を行っている回数は高校生、大学生、若者、保護者、教員など様々な対象者に合計で年250回を超えているので、東北でこの仕事をしている人の中では回数は多いと思う。今日は、私が見ている高校生の実態、進路を決めていくのに必要なこと、今日のテーマである正規雇用と非正規雇用などを話していきたい。

○思い込みは選択肢を狭める

覚えておいてほしいのは、進むかどうか別にして、進学の実績は3,900通り、

就職の選択肢は300通りくらいあるということだ。「進学する」「就職する」「卒業が目標」といった価値観は曲げる必要はないと思うが、「選択肢がある」ということは覚えておいてほしい。「お金がないから進学できない」と言われることはよくあるが、一般的に「500万円かかる」という見方はあまり意味がない。時間をかけて探せば、お金のかからない大学もある。私の短大の授業料は50万円ほど(スクーリングの交通費などは除く)だった。ある生徒が「養護教諭の資格を取りたい」と言っていた時、通信で資格が取れる大学があり、授業料や認定の経費等で70万円ほどだった。これを聞けば行けるのではと思える。

世の中で辛いことは「できない」「なれない」より「目指すことができない」ことである。思い込みがあると、選択肢があることに気づくことができない。

こうして話を聞いて相談したいと思ったら、ぜひ相談してほしい。

○「通信制だから進学(就職)できない」は一切ない

この仕事をして初めて関わったのが県外の通信制高校だったが、先生方が「卒業しても進学や就職ができない」という決めつけをしていたことにショックを覚えた。もちろん「卒業が目標」という人がいてもいいが「就職できない」は思い込みに過ぎない。「就職できる」「進学できる」という選択肢があり、皆さんはそれを目指せるんだと気づいてほしい。

○人として見るか、単なる労働力と見るか

会社を選ぶ時、自分のことを人として見るか、単なる労働力として見るかの違いが大きくなっており、現在は人として見る会社に入った方がいい時代になってきている。

現在は慢性的な人手不足にあるが、現在の会社は「こういう人がほしい」がない会社も少なくないのが実態である。そうすると働く側は「お金をもらえればいい」となり、フリーターでもいいと考えるようになる場合がある。そして、働き方が多様化している現在、フリーターを使い捨てにしている会社も多い。

○「通信制に通っている」が自己PRになる

就職試験では、基本的に「就職したい」と思った時より後しか問われることはない。通信制に通っていると自己管理が重要で、時間をやりくりしながらアルバイトも行うことがある。これ自体が自己PRであり、7日間の生活を話すだけでも自己PRになる。

○求人票を見るに当たって

求人票を見る時には①給料②勤務地③仕事内容④休日の4つを決めてから見ないと意味がない。「どんな企業があるか」だけでは中学生の職場体験と何ら変わらない。

大事なことは、この4つの条件はあくまでも価値観（自分が満足できるための条件）であり、必ず自分だけで考え書き出したうえで優先順位をつけることである。

①給料…自分がいくらもらえれば満足かであり、相場とは関係ない。

②勤務地…希望する場所の範囲はどこか、家から通えることが条件か等

③仕事内容…思いつかない場合はヤリタクナイコトを書く。ヤリタクナイコトも条件。

キャリアカウンセラーの85%くらい、大人の90%は「そんな仕事はない」などと、自分の言った条件を否定するところから入るが、否定されると何もやる気にならなくなってしまふ。価値観には正しいも間違っているもない。条件を決める時は一人だけでした方がいい。そのようにして条件を決めたうえで、条件に合った求人票を見ればよい。それがない状態で求人票を見ると、会社名などしか見ず、選択肢を狭めてしまうことになる。もしも条件に合う求人がない場合、条件を変えるかどうかはあくまでも自分次第である。自分の価値観や考え方は間違っているということはない。ただ、不安になったら「大丈夫だろうか」ということを他人に聞けばよい。

○むすびに～進路選択に当たって～

自分が何を選ぶかを考える時、近い将来にどうなっていたいかを、さきの条件を書き出しながら考えていけばいい。3年後または5年後にどうなっていたいかがわからない人は、とりあえず卒業した後に、あまりお金を掛けずに進学する道もあるのだと覚えていてほしい。ここにいる皆さんは自学自習ができると思うので、自分で調べることができるのではと思う。それに正しい情報が加わると鬼に金棒である。今日の話が1つのきっかけとなって、将来のことを考えてもらえればありがたい。

最後になるが、改めて思い込みがあると自らの選択肢を狭めることになるかと伝えたい。近い将来どうしたいか、毎日来ることはできないが、皆さんの支援をしたいと願っている。進学や就職の手助けになりたいと思っているので、ぜひ相談してほしい。

(3)「キャリア学習②」

講座名 平成28年度 キャリア学習②

日時 平成28年10月26日(水) 6・7校時 14:25～16:05

講師 石先 夏美 氏 (キャリアプランニング株式会社)

吉田 美穂 氏 (宮城学院女子大学心理行動科学科4年生)

平成29年4月からキャリアプランニング株式会社)

学習内容

○6時間目 今からやるべき進学対策 14:25～15:10 石先 夏美 氏

1 自己紹介及び本日の内容

本日は自分の体験を生徒の皆さんに伝える形で進める。

2 学校の大別 (一部文部科学省HPより抜粋しました)

- ① 大学 : 学術・研究をする所。知的、道徳的及び応用的能力を展開させることが目的。
- ② 短期大学 : 修業年限が大学より短期間。職業または実際生活に必要な能力の育成することが目的。
- ③ 専修学校 : 「職業若しくは実際生活に必要な能力を育成し、又は教養の向上を図る」ことを目的とする学校。実践的な職業教育、専門的な技術教育を行う教育機関。スペシャリストの育成。

※『絶対になりたい職業』が決まっていなければ、大学や短大を考えてみてはどうか。

専修学校は就職選択の際も限られてくる。『お金がないので専修学校に行く』という選択はしないでほしい。専門分野に興味がないのに入学すると入学後に苦勞する。

3 進学に必要な情報は自分で取り寄せ、進路先は自分で決める。自分の進路決定は自分に責任がある。

※自分が調べて、オープンキャンパス等で進学先の手ごたえを自分で感じ、自分が決めていくことが大切である。迷いの中で決めていく。迷いながらも決めなければならないものは自分で決めていく。その時、興味あるものについて調べていく。

具体的に

①進学先を調べる

- ・入試の種類 (一般・推薦・AOなど 別紙A4資料配付)
- ・入試に必要な科目
- ・高校時代文系クラスでも、自分で理系を学習して理系の学科を受験する生徒もいる。
- ・何から行動したらいいかわからない人は、どこか1つの大学の入試要項を取寄せてみよう。要項を取寄せ、いくつかを見てみると違いの発見もある。

・(石先氏の体験例として) 自宅がある大学の近くであった。その大学を身近に感じ興味を持った。最初にその大学の学部を調べ、次に自分が興味を持った理学部について他大学も調べた。高校に置いてあるパンフレットなどで全国の大学について自分が興味ある大学を見つけていった。

・進路の選択肢を広げるために今の学力を高めていくこと。特に、『聴く・書く・情報収集する』力は進学した時に必要になってくる。それをつけるには、今高校生活でやっている事を継続していくことである。

・自分だけで考えていても広がらない。学校に来た時、先生達と話すことで色々な情報をキャッチすることができる。科目でもわからない事は何回も人に聞こう。自分に不明な所や不安要素は残さないようにしておこう。聞かないでしまうとその分野は伸びなくなってしまう。

・(石先氏の体験例として) 理学部から人の前で話をする今の職業を選択することは想像していなかった。何かのキッカケで自分が想像できなかった新しいことが見えてくることもある。先生方や周囲から『〇〇〇をやってみたら?』と提案されたら、自分ではできないと決めつけず『行動してみよう』。人の意見を聞いて、自分が考える材料になるものを集めやってみるとよい。

○7時間目 今からやるべき就職対策 15:20~16:05 吉田 美穂 氏

1 自己紹介及び本日の内容

現在大学4年生、来年4月から就職する。ごく最近就職活動をした先輩として、就職活動を始める前にすることや就職活動をする上で必要な事を生徒の皆さんに伝えたい。

2 企業を選ぶ

(吉田氏自身は) 就職先について何を基準にすればいいのか、どう考えれば良いのかわからなかった。そんな人ほど、以下の4点と絞り方について求人票を見る前に考えて欲しい。

①条件を考える

・給料 ・勤務地 ・仕事内容 ・休日

②上の4点に優先順位をつける

この4つのうち譲れない条件はどれかを考える。

例 優先順位の高い2つが当てはまる。この求人票の会社は理想とは違うがチェックしてみる。

	理想	求人票
給料	15万円	13万円
勤務地（優先）	山形	山形
仕事内容（優先）	事務	事務
休日	土日祝	平日

この作業によって何ができるか

- ・ 沢山ある企業の中から選択肢を狭めることができる。
- ・ 自分は何を基準に就職を考えるかを確認することができる。

③その仕事をしたいかしたくないかを考えて企業を選ぶ。

- ・ 興味が無い、または納得のいかない所がある企業には応募しない。
- ・ 志望理由に繋がる企業の良い所を最低でも3つ探してみよう。良い所が見つからない場合は応募しない。
- ・ 企業に対する決めつけはしない。「どうせ私はこの会社には入れないだろう。」と思込みをしない。

例：IT企業のシステムエンジニアという仕事をしている人には、実は文系が多い。

3 自己分析について

自分自身について調べたり考えたりする作業が何故必要なのか？

⇒ 企業側はその人がどういう人かを知りたい。また自分も企業にアピールしなければならぬからである。

具体的な自己分析項目と内容

- ①学校について 自分が入学して学んだことは何か
- ②勉強について 自分の得意・不得意科目、興味のあるもの
- ③部活動について (所属している人は) なぜその部に入部し、そこで何が身についたか

④友人（先輩・後輩）関係について

自分にまつわる環境を整理しておくという視点。友人とはどういう繋がりがあるかを質問される。

*実際の質問例

「親友は何人いますか？その親友はどんな人ですか？」

⇒ 「親友は、私のために泣いてくれる優しい人です」

⑤趣味・特技・資格について

その趣味・特技・資格について興味をもったのはなぜか

⑥アルバイト・ボランティア（経験のある人）

なぜそれをやったか。そこで何を身につけたか

「面接では具体的なエピソードを教えてください」と聞かれることが多いので、これら①～⑥にまつわる【嬉しかったこと・悲しかったこと・成長したこと】を合わせて考えてみる。

4 自己PRについて 長所・短所についてしっかり整理する

①長所

1つではなく、いくつか考えておくといい。面接官は色々な側面から見たいため、何回も言葉を変えて聞いてくることがあるので、しっかり整理しておく必要がある。

*実際の質問例

「あなたの長所はなんですか?」「あなたの強みは何ですか?」「あなたを一言で表すと何ですか?」など

②短所

短所を考える時、短所を克服するために心がけていることまで言えるとよい。自分の弱みに対して、これまでどう向き合ってきたか、またこれからどう向き合っていくかを言う。

*実際の回答例

「1つの事に集中しすぎて視野が狭くなることです。今は優先順位を考えて行動しようとしています。」

「以前〇〇〇という失敗をして〇〇〇を気付かされました。今は〇〇〇を心がけています」

③自己PRのポイント

自分には〇〇〇という強みがあるので、仕事でもその強みを活かして働くことを企業に伝える。PRした強みに対して、どうしてその強みがあるのか、その根拠となる具体的なエピソードを言うことで現実味がでる。具体的なエピソードも一緒に考えること。

「強み」とは ⇒

- ・もともと持っている長所
- ・今、気をつけていること
- ・以前できなかったが今できるようになったこと

5 『SPIテスト』について

多くの企業が適性検査として採用している。その中の能力適性検査は事前対策が必要である。SPIは練習すればする程、力になるので事前に対策問題集を一冊準備して練習してほしい。速く正確に解く、あせらず落ち着いて解くことが大切である。

吉田氏が使用した問題集を紹介

(4) 職員研修会

講座名	平成28年度 職員研修会
日時	平成28年12月22日(木) 14:00~15:00
講師名	青木 厚子 氏 (ハローワークプラザ山形:学卒ジョブサポーター) 高卒後3年程度までの生徒への就職支援を行っている

I 講義内容と配付資料

講義内容

- ・ 昨今の労働環境
- ・ 高校生の就職活動年間スケジュール
- ・ 就職問題に関する申し合わせ内容について
- ・ 求人票を読み解く際の注意点
- ・ 通信制生徒(成人生徒)の高卒求人、一般求人利用の是非
- ・ 今からやるべき就職対策

配付資料 平成29年度3月新規学校卒業者を対象とする求人申込みのご案内冊子等

II 講座内容

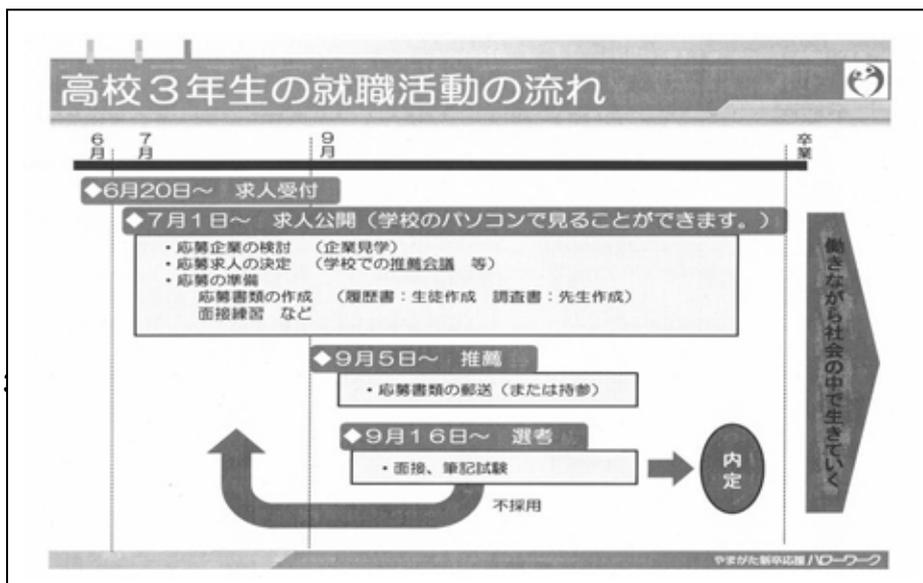
① 昨今の労働環境

『厚生労働省 山形労働局 報道発表資料』10月末のデータより

※山形労働局HPに随時掲載

- ・ H28年11月末現在の就職内定率は、86.3%と過去最高である。

② 高校生の就職活動年間スケジュール



高校生・保護者には『求人票は在籍する学校で見て下さい』としている。

ハローワークで求人票を見せることはない。

③ 就職問題に関する申し合わせ内容について

『平成29年度3月新規学校卒業者を対象とする求人申込みのご案内』冊子【山形労働局ハローワーク】は、求人申込についての企業への説明会で配付しているものである。説明会にはすべての企業が参加するわけではない。説明会に参加せず高卒求人のルールを理解しないで就職求人を行う会社もある。その際は、丁寧にかつ毅然と冊子4頁《平成29年3月高等学校卒業者の就職問題に関する申し合わせ》事項を伝えてほしい。それで何か不都合があればハローワークで指導をしていきたい。

平成29年3月高等学校卒業者の就職問題に関する申し合わせより抜粋

推薦及び選考開始の時期について

推薦文書の到達が9月5日以降

… 選考開始日については、9月16日以降を厳守する。

* 9月5日前に作文を同封するよう依頼があったが、そのような場合は選考日9月16日以降に持参すると答える。

家庭訪問について … 家庭訪問は、これを全面禁止する。

* 企業は確実に就職してくれるか不安になる。内定後は、本人直筆で会社に御礼状を書くことで、必ず就職する意思確認となる。学校側でも指導してほしい。

統一応募書類の使用について

… 応募書類は、文部科学・厚生労働両省及び全国高等学校長協会の協議をもとに定められた統一応募書類を使用することとし、高等学校は上記以外の書類による生徒の推薦は行わないこと。

採用内定の取消し及び採用時期の繰下げの防止について

… 学校は辞退しないように指導する。

採用（内定）生徒の就業開始時期及び研修等について

… 就業開始時期は卒業式後とすること。

その他

やり取りは学校を通して行う。企業見学時も含め、電話番号等の個人情報を教えないよう生徒に指導すること。

④ 求人票を読み解く際の注意点

高卒既卒者の応募は卒業後概ね3年程度可。

『求人票（高卒）の見方のポイント【厚生労働省・都道府県労働局・ハローワーク】』
求人票を見ただけでは分かり難い点もある。

補足事項・特記事項

ノルマがあるかないかが記載されていない。その業界にしてみれば当たり前のことでもノルマがあることを後で知って辞めてしまう可能性がある。

* ノルマの例

- ・銀行や農協：預金を集めたり商品を売る。
- ・カタログ販売：会員募集10人／1年から2,000円～3,000円集める。
- ・ガソリンスタンド：タイヤを売る。
- ・ディーラー：家族がその会社の車を買う。

□ 仕事の情報（就業時間）

就業時間は概ねを記入しているので、「実際の時間はどうなんですか？」と聞くと教えてくれる時がある。

● 法定労働時間について

保健衛生業など特定の4業種で、常時10人未満の労働者を使用する事業場の1週間の法定労働時間は44時間

□ 労働条件等（賞与）

労働者は給料や賞与を貰った時、「働いて良かった」と思いモチベーションを上げ、楽しみにしているだろう。

賞与も退職金も基本給を基に算出されることを指導する必要がある。12月に初めてそのことを知り、ガックリ来て退職する人がでてくる。

⑤ 通信制生徒（成人生徒）の高卒求人、一般求人利用の是非

22歳くらいまでなら高卒求人でも可能。本人のやる気次第なので、会社に聞いてみるとよいだろう。教員が薦めたい生徒ならばどんどん売りこんでほしい。

ハローワークに相談に来た時は、本人に確認した上で能力・資格があれば高卒求人ではなく一般求人への応募も可能。ただし、単純作業や軽作業しかできない場合は正社員の求人はない。軽作業はパートやアルバイトで充足できる。

⑥ 今からやるべき就職対策 等

1月4日以降まだ就職内定がない生徒はハローワークでの登録と紹介が可能になる。

3ヶ月間ハローワークでお金を出して雇用するお試し期間があるものもある。ハローワークの紹介に限られるのでハローワークに相談する。

⑦ その他

アルバイトの継続先等から高卒求人を出してもらうには、「本人のためなのでご協力いただきたい」とお願いしてほしい。学校からの求人票依頼がだめならば、[労働条件通知書]を出してもらう。学校からハローワークに相談する。

4 D 基礎学力（定時制）

（1）今年度事業報告

①職員研修会

8月2日（火）に事務局の協力のもと、定通合同職員研修会を開催した。山形県教育センターの山科 勝 指導主事から「探究型学習の授業づくりの基礎～生徒の基礎学力向上を目指して～」と題して、ご講演をいただいた。

②セミナーへの参加

D委員会の委員が、校外のセミナーに参加し、アクティブラーニングに関する研修を行った。

・7月29日（金） 於：仙台市

高校教員対象アクティブラーニングセミナー

「～東北の教育を考える～生徒が能動的に学習する真の『教育』を目指して」

・8月6日（土）～7日（日） 於：京都市

（株）学研アソシエ主催「高校教育フォーラム2016」

③試験前学習会

定期試験前は生徒の職員室への入室が禁止となるため、昨年度に引き続き、会議室を学習質問会場として確保した。（年間5回、約25日）

④「総合的な学習の時間」発表会

本校における「総合的な学習の時間」を探究型学習の実践と考え、その成果を発表する場として生徒自らが取り組む発表会を各部で計画し、11月17日（木）のLHRの時間に実施した。

⑤「たいよう」

Ⅲ部で、基礎学力養成教材「たいよう」を年間16回実施した。

（2）事業取り組みの課題

本校には、特別な支援を必要とする多様な生徒が在籍しており、授業において配慮を要する生徒が多数いる。それらの生徒に対応しつつ、アクティブラーニング（探究型学習）を行うことは難しい面がある。本校にあったアクティブラーニング（探究型学習）の形を探っていく必要がある。

（3）来年度の検討事項

- ① 本校における基礎学力とは
- ② 総合的な学習の時間の発表会の改善



4 D 基礎学力（通信制）

（1）基礎学力アップ

本校では生徒の基礎学力向上対策の一環として、「基礎力アップ学習会」を行ってきた。今年度から、CSプロジェクトの実施に合わせて生徒にもより親しみやすい「霞城塾」に名称を変更した。下記がその要項である。

（霞城塾要項、1～10）

1. 目的

- ①中学校までの基礎的，基本的な学習内容が身につけていない生徒に対して、基礎学力の定着を図ることでレポート学習がスムーズに進むようにし、通信制での学習の基礎となる力を育成する。
- ②集団の一員としての行動を通してさまざまなスキルを身につけさせることにより、社会性を育てる。
- ③年間学習計画の進捗状況の把握および必要に応じて修正に努めさせる。

2. 対象生徒

- ①新入生を中心とするが、在校生の参加も認める。
- ②「明日への～」科目を履修登録している生徒。
(基礎コース履修者中心・3科目すべて受講でなくとも可)
- ③継続的な出席が可能である生徒。

3. 募集定員

- ・特に設けない。
- ・新入生は、レポート学習会での「基礎力コース」の生徒を引き続き参加させる。
- ・在校生については、学習意欲が明確であれば参加させる。

4. 実施時期

- ①5月から11月にかけての火曜日の午後（13時から16時）。
- ②全20回の予定だが、生徒にはまず10回分（7月まで）の計画を連絡し、それ以降については状況に応じて判断し連絡する。

5. 実施科目

「明日への国語」・「明日への数学」・「明日への英語」（※1）
スキルトレーニング（※2）

6. 指導体制

①指導は原則として3教科の担当者が行う。他教科職員については、霞城塾の担当を2名置き、出席確認・連絡等を行なう。2名のうち1名を新入生担任から、1名を学習促進課から選出する。

②必要に応じて基礎力アップ担当者会を行い、お互いの連携を図るとともに、スキルトレーニングの内容の検討等を行なう。

7. 指導内容

「明日への～」科目のレポートを中心に、小学校からの学習内容の中でレポート学習の土台となる基本的かつ重要な事項を補完する。

8. 教材

「明日への～」科目のレポート，テキスト，補助教材 等

9. 指導方法

①実施時間は1コマ40分とし、講義と演習を組み合わせる。

時間割については、1・2・4コマに3科目のローテーションで割り振る。

(教室の開錠)	12:30	
H R	12:55 ~	
1時間目	13:00 ~	13:40
2時間目	13:50 ~	14:30
3時間目	14:40 ~	15:10 《スキルトレーニング》
4時間目	15:20 ~	16:00
(施錠)	16:30	

【16:30までは各自の予習や復習の時間として利用できる】

②「明日への～」科目のレポート提出基準日に合わせた指導を行う。

③テストについてはテスト受験予定日を目指し、テスト勉強の仕方をアドバイスする。

10. その他

開講式・閉講式を実施し、継続的に学習できた生徒には校長名で修了証を授与する。

(※1) 「明日への国語」・「明日への数学」・「明日への英語」

本校で開講している学校設定科目で、各2単位。学習内容については、主に中学校の復習と必修科目の基礎的な部分を中心。同じ教科の他の科目

の単位を修得していないことが履修可能な条件。

入選合格者に3教科の「基礎学力判定問題」と解答を郵送し、入学前の履修指導時まで問題解いて自己採点してくるよう指示。履修指導者はその結果を考慮して、必要であれば必履修科目を履修する前に明日への科目を履修するように勧める。「明日への～」科目の履修は、1教科だけでも可。

(※2) スキルトレーニング

毎週担当者が変わりそれぞれの担当者が工夫し、全員での作業やゲーム等を通してコミュニケーションをはじめとする様々なスキルの向上を目的としている。

(今年度の状況と来年度以降について)

年度当初の申し込みは、新入生12名・在校生4名の計16名であった。その中で、ほとんど欠席なしで継続的に学習して修了証を授与された生徒は3名、ほとんど学校に出校できなかったなどの理由で一度も出席できなかった生徒は7名であった。

出席状況は良好とは言えないまでも、出席者のアンケートからは、以下のような意見が寄せられた。

- ・わからないところをしっかりとわかるまで説明してくれるので、レポートを進めやすくとても助かった。
- ・参加者が少ない中でも先生方は熱心に指導してくれて、とてもわかるようになった。11月までではなく、2月まで続いてもよかった。
- ・レポートを進めるのにとっても役に立ち、単位も修得できるかもしれない。

年度当初には霞城塾に出席しようとする生徒が多いこと、出席した生徒にはとても有益だったことを考慮し、来年度以降についてもぜひ継続して実施していきたい。

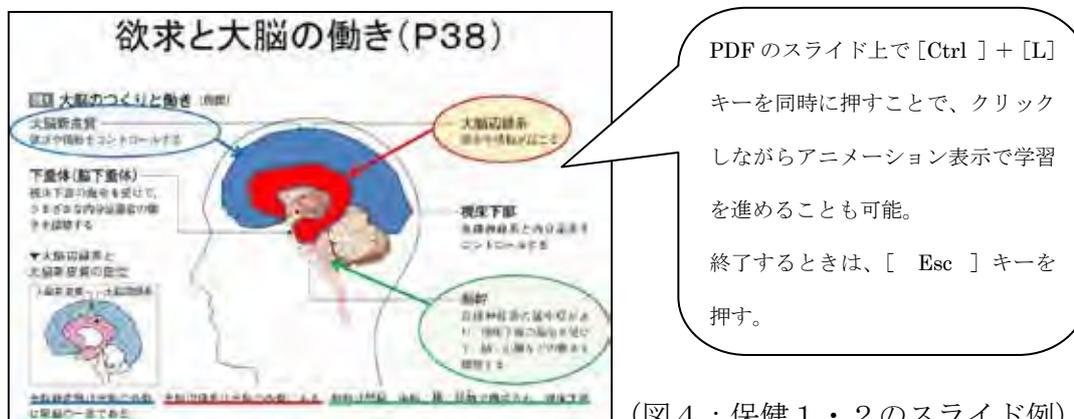
②HP上で利用できる自学自習教材の作成

情報科では、担当教員が「社会と情報」の学習支援サイト（図3）を別に作成し、学校HPからジャンプして、学習を進めることができるようになっている。メニューも豊富で内容も充実している。



（図3：情報科の「社会と情報」学習支援サイト）

また、保健体育科の保健1・2では、スクリーングで使用したパワーポイントのスライドをPDF化し、アニメーション機能を活用し、クリックしながら学習を進めることができるようにしている。



（図4：保健1・2のスライド例）

③メールによる教科への質問と回答、まとめ

生徒が質問する方法は、教員に直接か電話、郵送でも可能であるが、多様な生徒が在籍する本校では窓口も多い方がよいと考え、通信制代表メールでの質問も受け付け、教頭が中心になり対応・回答している。

本校通信制のレポート学習は、教科書と学習書、補助教材で進めることが可能な内容になっており、本支援サイトを活用する生徒はまだ少ないが、基礎学力アップが必要な生徒はじめ多様な生徒に対応できるよう、今後とも改善を図りながら進めていきたいと考えている。

5 E 進学者対策（定時制）

(1) 今年度事業報告

①教科個別指導（5月～2月）【卒業予定者対象】

卒業予定者の進学希望者に対して、普段の授業では対応できない進学指導については個別指導として教科担当者毎に生徒を割り当てて、授業時間以外の時間帯で指導した。

また、長期休み中は、時間割を組んで教科指導を行った。

期 日	教 科	指 導 内 容
5月2日（月）～7月22日（金）	国・社・数・理・英	平日個別指導（含講義形式）
夏 季 休 業	国・社・数・理・英	長期休業中個別指導（含講義形式）
8月22日（月）～12月22日（木）	国・社・数・理・英	平日個別指導（含講義形式）
冬 季 休 業	国・社・数・理・英	長期休業中個別指導（含講義形式）
1月6日（金）～受験日まで	国・社・数・理・英	平日個別指導（含講義形式）

②面接・小論文指導（6月～3月）【卒業予定者対象】

教科指導とは別に AO 入試や推薦入試等に対応し、希望生徒毎に教員を割当てて面接練習及び小論文練習を行った。また、キャリアカウンセラーや進路アドバイザーにも最終的な段階で面接指導をして頂き、非常に効果的であった。

指導の流れ		
6/15(水)	「面接・小論文・作文指導 希望願」用紙(裏面)配布	(各担任→卒業予定者)
6/22(水)	「面接・小論文・作文指導 希望願」生徒提出締切	(卒業予定者→各担任)
6/24(金)	進路課へ上記希望願提出締切 ※締切厳守をお願いします。	(各担任→担当)
 ※この期間、進路課、卒担での調整と改訂 ※尚、職員の担当割については、教科の個別指導を抱えている先生には配慮をして割振りを行いますので、ご協力をおねがいします。		
7/8(金)	指導者割り振り提案	(職員打合せ)
7/11(月)	・担任を通じて担当者を生徒に通知。 →生徒が担当者に「挨拶と具体的な指導開始時期等の打合せ」に何うようご指導願います。	(各担任→卒業予定者)
7/21(木)まで (夏休み直前)	指導日程打合せ等	(卒業予定者→指導担当者)
⇒ 指導開始		

③外部模試（6月～2月）【卒業予定者・高2生・高1生対象】

実力養成講座という形で長期休み中の講習と外部模試を連動させ、進学希望者はその両方を受講することにより、進学の意識向上と希望達成を目指すことができた。

・高1コース実力養成講座

期 日	教 科	指 導 内 容
7月25日（月）～29日（金）	国・数・英	夏 期 講 習（午後）
10月17日（月）～19日（水）	国・数・英	11月進研模試教科が'ﾀﾞﾝｽ
10月29日（土）	国・数・英	進 研 模 試
12月26日（月）～28日（水）	国・数・英	冬 期 講 習（午後）
1月21日（土）	国・数・英	進 研 模 試
3月上旬～	国・数・英	春 期 課 題 学 習 ※各教科担当の指示による

・高2コース実力養成講座

	期 間	教 科	指 導 内 容
前 期	6月22日（水）～6月24日（金）	国・数・英	7月進研模試教科が'ﾀﾞﾝｽ
	7月2日（土）	国・数・英	進 研 模 試
	7月25日（月）～7月29日（金）	国・数・英	夏 期 講 習（午後）
後 期	10月17日（月）・10月18日（火）	社・理	11月進研模試教科が'ﾀﾞﾝｽ
	10月28日（金）・10月29日（土）	国・社・数・ 理・英	進 研 模 試
	12月26日（月） ～12月28日（水）	国・数・英	冬 期 講 習（午後）
	1月20日（金）・21日（土）	国・社・数・ 理・英	進 研 模 試
	3月上旬～	国・社・数・ 理・英	春 期 課 題 学 習 ※各教科担当の指示による

④オープンキャンパス訪問（7月30日）【高2生・高1生 進学希望者対象】

今回は、学科改変が行われる山形大学に訪問先を決め、11名の参加で実施した。看護系希望者については、飯田キャンパスへの訪問とし、小白川キャンパスの人文学部や理学部 などそれぞれ希望の学部に分かれて参加させ、非常に貴重な体験となった。



⑤夏期・冬期講習（夏期休業及び冬期休業）【卒業予定者・高2生・高1生】

前述したように、実力養成講座の一環で夏期講習は5日間（7/25～7/29）、冬期講習は3日間（12/26～12/28）の日程で行った。

※進学希望の高1生・高2生を対象として、今年度新たに「進学セミナー」を開き進路意識の向上を図った。

《高2生・高1生対象 進学セミナー（冬期）》

○対象生徒

・高2生（3修生の2年次、4修生の3年次）、高1生（3修生の1年次、4修生の2年次）

・大学・短大・医療系看護専門学校への進学を希望する生徒

○日 時 等

日 時	12月26日（月） 11:00～12:00	12月27日（火） 11:00～12:00
場 所	視聴覚室（8F）	
対 象	高2生 （3修生2年次・4修生3年次）	高1生 （3修生1年次・4修生2年次）
講 師	桑名 暢 氏	



⑥保護者対象事業（5月21日 PTA 総会后）

・教育資金説明相談会（進学に係るマネープラン学習会）10名参加
マネープランナーの方を講師に迎えて、進学を希望する生徒の保護者に対して、特に大学・短大・専門学校に入学した時の費用に関することや自宅から通う場合と一人暮らしをする場合の違いなど詳しく説明して頂いた。日頃、聞くことができない専門家の話を真剣に聞き入っていた。



・キャリアカウンセラーによる進学相談会 10名参加
マネープラン学習会終了後、週に一度来校しているキャリアカウンセラーの桑名氏より、進学希望者を持つ親の立場として、進学をさせる上で気をつけることやこれから取組まなければいけないこと、親として注意することなどの貴重な話をして頂いた。その後、個々の形で質問のある保護者に対して答えることで相談会とした。



また、7月に行われた「PTA交流会」では「本校生徒における進路指導のポイント」と題して保護者講演会も行って頂いた。

(2) 事業取り組みの課題

1年次生の中で進学に対する考え方があまい生徒が見受けられる。保護者、生徒ともども進学に対してもう少し真剣に考える機会を作れないか。そうすれば、学習（成績）が伴わない中で無理な進学希望が減るのではないか。本校の進学指導のポイントと思われる。

卒業予定者について、AO入試や自己推薦など入試制度が多様化する中で、今まで対応してきた本校の本来的な進学指導が崩れる場面が生じてくる恐れがある。(外部の専門的な予備校や塾を利用する生徒が一部存在する。)

(3) 来年度の検討事項

- ①入学前から本校の進学指導について、生徒・保護者ともに理解してもらう必要がある。
- ②入試制度の改変（大学入学希望者学力評価テスト）に対する対応策を検討する。
- ③本校生に合った形で授業にアクティブラーニングを導入し、日常的なキャリア教育の位置づけで新大学入試に対応する必要がある。

(3) 独立行政法人日本学生支援機構奨学金の特徴 ※旧・日本育英会奨学金

○奨学金は3種類あり

	利子	月額貸与金額	条件
第一種 (約3割が利用)	無	3万円、または校種、通学区分により選択 (45,000円～64,000円)	収入条件あり 評定平均3.5以上
第二種 (約7割が利用)	有	3万円～12万円から選択 (私立医・歯・薬・獣の場合12万円から増額可)	収入条件あり 評定平均の条件なし
入学時 特別増額貸与	有	10万円～50万円から選択 (初回の奨学金振込時に貸与)	国の教育ローンを 利用できない人のみ

○メリットの大きい予約採用 ※2浪生まで申込可 迷ったら予約申込だけしておくこともお薦め

・全国一律、平等に審査される

在学採用（進学後の申込）の枠は学校により異なるため、運に左右される可能性あり

・最終の借用手続きで辞退や内容変更も可能

金額・保証方式・利率算定方式等の変更、入学時特別増額貸与奨学金のみの辞退も可

・進学後の再チャレンジが可能

予約奨学金で一種不採用の場合でも、進学先で一種奨学金の申込も可能

○返還のしかた

・概ね借りた月額額の3分の1から4分の1を、3～4倍の期間で返還するイメージ

・返還が苦しくなったら必ず機構に相談すること！！

返還期限猶予(一定期間返還を待ってもらおう)、減額返還(月々返済額を減らして期間を延ばす)、所得連動返還(第一種奨学金のみ；収入に応じた返済額にしよう)といった救済措置あり

・機構からの連絡を無視すると、様々なデメリットが発生する

5%の延滞金が課されるほか、差押などの法的措置の可能性もあり

個人信用情報機関に登録され(最短でも5年)、ローンやクレジットカードの利用に支障あり

(4) その他の奨学金制度 (例)

○授業料等免除制度…多くの大学等にあり、経済的事情のほか震災等の被災者対象のものも

○大学等独自の奨学金制度

(例) 山形大学山澤進奨学金…毎月5万円支給、入学料・授業料全額免除 (各学部1人)

○地方自治体、各種団体等の奨学金制度

(例) 西川町育英会…西川町民のみ、月額3万円以内、無利子

西川町立病院の医師・看護師に就任した場合は免除制度あり

あしなが育英会…不慮の事故等(交通事故以外)で親が死亡または後遺症になった場合

○新聞奨学生…新聞配達等で働きながら奨学金と給与を受ける。返還免除になる場合もあり

(5) 教育ローン (例)

○国の教育ローン (日本政策金融公庫が実施) 子ども 1 人につき上限 350 万円

○ふるさと奨学ローン (東北労働金庫山形県本部)

卒業後、県内に就職または就業した場合、一定の利子が補給される (原資は県、市町村等が負担)

参考サイト

奨学金なるほど相談所 <http://www.shogakukin.jp/>

Benesse マナビジョン保護者版 <https://manabi.benesse.ne.jp/parent/okane/>

県教育庁高校教育課 <http://www.pref.yamagata.jp/ou/kvoiku/700013/shougakukin/syogakukiniigyoichiran.pdf>

1. 一般的な進学費用

○受験料の目安

大学入試センター試験	12,000～18,000 円	
国公立大学 二次試験	17,000 円	
私立大学	一般(推薦)試験	35,000 円
	AO試験	20,000～30,000 円
	センター利用選考	15,000～20,000 円
私立専門学校	20,000～30,000 円	

○受験のための費用

交通費、宿泊費等
→東京近郊の場合、1回受験につき3～4万円程度

○生活費用

新生活準備(引越、生活用品、敷金等)	平均45万円程度
生活費(自宅外通学)	月8～9万円程度
生活費(自宅通学の場合)	月 33,000 円程度

○初年度納付金平均額

国立大学	817,800 円	入学金 282,000 円、授業料 535,800 円
公立大学(地域内)	768,990 円	入学金 231,333 円、授業料 537,857 円 ※地域外は入学金約 17 万円増
私立大学(文系)	1,225,856 円	入学金 242,579 円、授業料 746,123 円 (他に施設設備費、実験実習費等)
私立大学(理系)	1,640,380 円	入学金 262,436 円、授業料 1,048,763 円 (他に施設設備費、実験実習費等)
私立大学(その他)	1,611,966 円	入学金 270,233 円、授業料 951,119 円 (他に施設設備費、実験実習費等)
私立短期大学	1,260,996 円	入学金 245,783 円、授業料 693,495 円 (他に施設設備費、実験実習費等)
専門学校	1,236,000 円	入学金 179,000 円、授業料 684,000 円 (他に施設設備費、実験実習費等)

国立大:文部科学省 27 年度標準額

公立大:文部科学省 27 年度調査

私立大:文部科学省 26 年度調査

専門学校:(社)東京都専修学校各種学校協会 27 年度調査

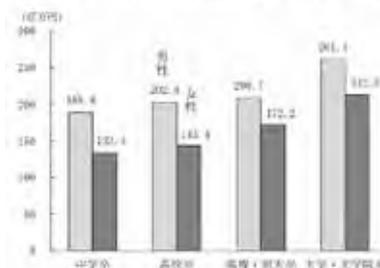
2. 生涯賃金の比較

高卒と大卒では 6000 万～7000 万円程度の差
→経費を差し引いても進学にはメリットあり

出典:ユースフル労働統計 2015

<http://www.jil.go.jp/kokunai/statistics/kako/documents/useful2015.pdf>

図 21-1 生涯賃金 (60 歳まで、退職金を含まない、2013 年)



注:学校を卒業したただちに就職し、60 歳まで退職するまでフルタイムの正社員を続ける場合(同一企業継続就業とは限らない)。

(3) オープンキャンパス等への引率

5月・6月の日曜スクーリングにおけるSHR連絡で参加生徒募集を試みたが、希望者なしということで実施することはできなかった。心身面や経済面などで個人では参加できない生徒を想定しての計画だったが、心配は杞憂にすぎなかったようだ。進学を希望している生徒であれば、学習のみならず様々な情報収集や家庭内における経済的相談も個別対応が可能でなければ、進学など実現できないのかもしれない。

(4) 「面接・小論文」個別指導・外部模試

面接指導については進学・就職を問わず、原則として学級担任が担当している。必要に応じて学習促進課の職員が支援にあたることもあるが、回数、内容についても一任しているというのが現状である。卒業可能な生徒のうち該当生徒が少数ということもあり、組織だった指導にはいたってはいない。将来、希望生徒が増加するようなことになれば、組織的な取り組みの導入ということになるだろうが現在では未知数である。

小論文指導にあつては学級担任による指導も一部にはあるが、ほとんどが国語科教員(多くは国語表現担当者)による個別指導で賄っていただいているというのが実態である。該当生徒がごく少数という現状ではあるが、担当者にとっては負担が大きいということも現実である。面接指導同様、将来的には組織的な体制の構築が求められるかもしれない。

外部模試については以前、複数業者を利用して通信制単独で実施していたが、近年では受験者の減少ということもあり、定時制との合同で1業者によるマーク模試と記述模試の合わせて年5回を実施している。受験者は卒業年次のごく少数に留まっているのが実態である。

6 F ライフスキル（定時制）

（1）今年度事業報告

①Ⅲ部 1年次におけるライフスキル講座（全員対象）各回：4時間扱い

前期と後期の「総合的な学習の時間」を利用して、ライフスキル講座を実施した。

【前期】（担当：井上、柏倉、後藤悠、細谷）

回	月	日	テーマ	内容
1	5	17	オリエンテーション 自己理解・他者理解	オリエンテーション、自己紹介、みんなの出身地、自分について30個記入、氏名の一文 字目から始まるキャッチフレーズ、言われて うれしいほめ言葉
2	6	7	自己理解・他者理解 コミュニケーション	間違い探し、ジャンケンゲーム、出会いのビ ンゴ、自分の性格を考える、名刺交換ゲーム、 ジグソーパズル、トランプゲーム
3	7	5	コミュニケーション ストレスマネジメント	間違っただ思い込みに気づく、ストレスを知る、 ストレスを感じる、ストレスマネジメントを知 る
4	8	26	ストレスマネジメント アサーション	ストレス解消法を知る、上手な自己表現（ア サーション）を知る、上手な頼み方・断り方 を身につける

【後期】

回	月	日	テーマ	内容
5	10	4	オリエンテーション 自分を知る・他者理解 アサーション	オリエンテーション、みんなのいいところを 記入する、アサーティブ度チェック、自分好 感度チェック、上手な話し方・聞き方を身に つける
6	11	1	コミュニケーション	トリック絵、間違い探し、2人の共通点を探 す、チームでパズル、チームでビンゴ、チー ムで間違い探し
7	11	8	企業見学	スキルの活用 Ⅱ部「山形の企業を知る」とタイアップし、 企業見学を行った。
8	11	14	コミュニケーション 合意形成・意志決定	きずな外し、プロフィールシート作成、模擬 面接、無人島に何を持っていくか、KJ法

②Ⅱ部1・3・4年次におけるライフスキル講座（希望者対象）各回：4間扱い

後期の「総合的な学習の時間」を利用して、ライフスキル講座を実施した。

【後期】（担当：齋藤、椿、桂野）

回	月	日	テーマ	内容
1	10	4	オリエンテーション 自己理解・他者理解	オリエンテーション、自己紹介、みんなの出身地、自分について30個記入、氏名の一文 字目から始まるキャッチフレーズ、言われて うれしいほめ言葉
2	11	1	自己理解・他者理解 コミュニケーション	間違い探し、ジャンケンゲーム、出会いのビ ンゴ、自分の性格を考える、名刺交換ゲーム、 ジグソーパズル、トランプゲーム
3	11	8	コミュニケーション ストレスマネジメント	間違った思い込みに気づく、ストレスを知る、 ストレスを感じる、ストレスマネジメントを知 る
4	11	14	ストレスマネジメント アサーション	ストレス解消法を知る、上手な自己表現（ア サーション）を知る、上手な頼み方・断り方 を身につける

（2） 事業取り組みの課題

昨年度と同じ部・規模でライフスキル講座を実施することができたが、来年度は担当できる指導者の数が減ってしまうため、どの部でどういう規模で実施できるかは明らかにできていない。すべての教員が指導できるように、ライフスキル講座のモデル化に向けて研究をすすめていく必要がある。

（3） 来年度の検討事項

- ① ライフスキル講座を実施する部・規模の早期確定
- ② ライフスキル講座のモデル化に向けての研究



6 F 講座・研修（通信制）

（1）ライフスキル講座

通信制では、「総合的な学習の時間」に「ライフスキル講座」を選択者に毎年実施している。

①目的

学校生活や日常生活の中で、いろいろな人とのかかわりや出来事に対して、うまく対応できる能力や態度を養う。また、自分の感情とうまく付き合い、円滑に人とのコミュニケーションをとれる「コツ」を講師の方や本校職員とともに学び合いながら、時にはワークショップ形式なども取り入れたグループ活動や個別面談を通じて、ライフスキルの向上を目指す。

②校内担当者

保健課2名、希望のつばさ委員2名 計4名、その他外部講師として、発達支援研究センター職員・ハローワーク職員・T Aカンパニー代表取締役等に協力を依頼している。

③講座内容

回	月	日	時間	担当者	内容
1	6	5	5時間目	本校職員	オリエンテーション（年間計画・受講の仕方） 自己紹介（出会いの演出）
2	6	8	6～ 7時間目	発達支援研究 センター職員	職業レディネステスト～自分自身を発見しよう 職業適性検査の実施
3	8	31	6～ 7時間目	発達支援研究 センター職員	職業適性検査のフィードバック及び自己分析
4	9	28	6～ 7時間目	発達支援研究 センター・ハロー ワーク職員	職業適性検査のフィードバックと就労支援機関の利用の仕方
5	10	16	7時間目	本校職員	コミュニケーションスキルアップ「文章リレー」「困った時に相談するスキル」
6	11	9	6～ 7時間目	発達支援研究セ ンター職員・ ブライダルブラ ンナー社長	基礎的なマナー講座 電話の受け答えの講習会
7	11	27	6時間目	本校職員	単位取得に向けて

④受講者

今年度の希望者は男子17名、女子31名の計48名であった。総合のレポートの合格のためには、10時間以上の活動が必要であるが、10時間に満たない場合は、校内で実施しているのソーシャルスキルトレーニング講座や外部の支援機関で活動しても時数を認定している。ライフスキル講座に10時間以上参加した生徒は18名であった。

6 F 発達障害支援・外部機関との連携

(1) 今年度事業報告

「特別支援巡回相談」

9月14日に上山高等養護学校より須藤祐子先生、渡邊千佳子先生に来校していただいた。最初に発達障害及びその疑いがある生徒（5名）の授業や休憩時間の様子を参観していただき、その後支援方法等について助言をいただいた。5名の中には療育手帳を持っている生徒もあり、そうした生徒が就職を希望する場合、どのような就労相談機関と連携を取りながらすすめていくのがよいのか紹介していただいた。

(2) 事業取り組みの課題

上記の療育手帳を持っている生徒は来年度卒業を予定しており、就職を希望している。紹介していただいた就労相談機関と連携を取りながら進路実現に向けてすすめていきたい。また、発達障害等の生徒を就労させるにあたり、担任がどのような手順ですすめていくかを分かりやすく示した特別支援フローチャートの改訂についても、取り組んでいきたい。

(3) 来年度の検討事項

①関係就労相談機関との連携

②発達障害をもつ就職希望の生徒を対象にした特別支援フローチャートの改訂

6 F 生涯学習講座

◆PCスキルアップ（前期）

期 間 平成28年5月13日～7月29日の金曜（全11回）

時 間 初級 13:00～14:40

中級 17:30～19:10

受講者 初級 16名（一般10名 生徒6名）

中級 13名（一般11名 生徒2名）

◆芸術に親しむ～篠笛の楽しみ

期 間 平成28年6月9日～8月25日の木曜（全11回）

時 間 13:00～14:40

受講者 11名（一般8名 生徒3名）

◆PCスキルアップ（後期）

期 間 平成28年11月4日～平成29年1月27日 の金曜（全10回）

時 間 中級 13:00～14:40

初級 17:30～19:10

受講者 中級 16名（すべて一般）

初級 2名（すべて一般）

◆実践！3Dプリンタ

期 間 平成28年11月10日～12月15日の木曜（全5回）

時 間 17:30～18:30

受講者 6名（すべて一般）

◆ロボット工学の世界

期 間 平成29年1月5日～2月2日 の木曜（全5回）

時 間 17:30～18:30

受講者 9名（すべて一般）